〝市民スポーツ路線〟を強く打ち出そうとする日本協会普及指導部新企画のトップバッターとして、月例練習会・ハンドボール相談室が、いよいよ〝登場〟する

東京青少年総合センターで ハンドボールを楽しみませんか

4月17日(土)17〜19時

毎月第3土曜の夜に集い

日本協会普及指導部はこのほど「第1回ハンドボール土曜の集い」を、4月17日午後5時から2時間東京代々木の東京オリンピック記念青少年総合センター体育館で開くと発表した。

ハンドボールでひと汗流すもよし、ハンドボールを語りあうもよしという集いこそ、市民ハンドボール活動にふさわしいと、同部が企画をねっていたものの実現で、来年3月までの1年間、毎月第3土曜日の夕べ、この催しをつづけるという。

勝繁夫担当常務理事は「とりあえず東京で第1弾をはなつが、ゆくゆくは、全国いっせいに、第3土曜日の夜は、ハンドボールの集いが開かれている、といったかたちにしたい」という。

すでに、大阪、熊本などでは類似した活動が行われているようだが、日本協会が、こうした〝市民路線〟へ積極的に乗り出すのは初めてといってよく、なりゆきが注目される。

参加費は一人百円

今回の集いは、発表された要領によれば、

・参加資格、男女、年令、経験、登録の有無いっさい問わず
・参加費　一人百円
・指導員　日本協会普及指導部員
・講師　日本協会技術部員、同審判部員

などとなっており、前もっての参加申しこみは必要なく、当日直接会場へ、スポーツのできる服装を持って来て下さるだけでよい。

会の内容は、体育館での〝実技〟のほか、ハンドボールに関するいっさいの相談（トレーニング、理論、審判、チーム造りなど）や、ハンドボールのよもやま話を咲かせるため一室を貸し切っての「相談室」が併設される。

内容はリクエストで

〝実技〟は、いまのところ、どのような人たちが参加するか見当がつかないため、とりあえずレベル、男女、年令などでグループに分け、それぞれでハンドボールを楽しんでもらう計画だが、毎回、一線級プレイヤーをゲストコーチに招くプランもある。

第1回の4月は、かっての全日本選手・福本弘（芝浦工大—大崎電気、GK）、大西武三、平岡秀雄（ともに東京教大—東京教員ク）の3氏の参加が予定されている。

また、第2回以降は、参加希望者のリクエストに応じてプログラムを組むことも考えられている。

なお、会場の都合などで、参加者が多数になった場合は、時間制限されることがある。

現在、毎回の参加数は50〜70名とみられている。

—会場ご案内—

◇オリンピック記念「青少年総合センター」　電話四六七—七二〇一

・京王帝都バス＝新宿西口から渋谷東横前行き、渋谷西口から新宿京王百貨店行き、いずれも「代々木5丁目」下車2分
・小田急「参宮橋」下車5分
・地下鉄千代田線「代々木公園」下車8分
・車利用のかたは首都高速4号線代々木ランプが目印です。

第2回は5月15日　第2回の集いは、5月15日午後5時から7時まで、会場は引きつづき東京代々木の東京オリンピック記念青少年総合センター体育館で開かれる予定。

「ジュニア用ブック」完成

日本協会普及部は、年少者対策として「ジュニア用ガイド・ブック」の刊行準備を進めていたが、このほどできあがった。

「ブック」は、イラストによってハンドボールの競技概要やルールが判りやすく説明している。

また、巻末には、小学校教材として〝簡易ハンドボール〟を指導者用にガイドしている。

今年度は、限定二千部を用意、一部100円で頒布する（ほかに送料200円）。申しこみ先は日本ハンドボール協会。

編集委員会では、日本協会普及指導部の新企画に呼応して、「ハンドボールの集い」に関するご案内を、今後定期掲載いたします。ご利用下さい。

各都道府県協会の同よう企画についてのお知らせにも誌面を提供いたしますので、原則として催しの2ケ月前に、編集委員会あて原稿をお送り下さい。

「ハンドボール」

51年4月号（第140号）目次

【表紙写真】モントリオール・オリンピック男子アジア地域第1次予選・日本×韓国1回戦（3月17日・台北市）＝全日本選手団提供

日本、順調に代表決定戦（対イスラエル 3.5日・テルアビブ）へ

モントリオール・オリンピック男子アジア地域第1次予選は3月15日から21日まで台湾・台北市に日本，韓国，台湾が集まり2回総当りで争われ，日本（神田清団長ら役員4，選手14）が段違いの実力を示して全勝，4月3，5日テルアビブで行われるイスラエルとのアジア代表決定戦へ駒を進めた．

日本チームは，3月23日，いったん帰国（沖縄），そのまま合宿をつづけ，29日午前7時30分沖縄を発ち，ホンコン経由テルアビブへ向かう。代表決定戦のメンバーは林達夫副会長が団長をつとめ，コーチングスタッフ，選手は第1次予選と同じ顔ぶれ（別掲）である。

モントリオール・オリンピックアジア地域予選

韓国・台湾を一方的

第1次リーグ

日本の1第戦・台湾との1回戦は3月16日午後7時から新装の台北市立体育専科学校体育館（注・第2戦以降も同体育館）で行われた。

審判＝フォーク、ロスマニス（西ドイツ）、観衆＝四千

日本 40（22—5、18—8）13 台湾

得	【日本】		【台湾】	得
0	本田	GK	童建文・175cm	0
0	斉藤	GK	董国恩・167	0
2	木野	FP	陳金富・187	0
1	藤中	FP	李麟虎・176	2
5	中井	FP	潘志鵬・176	6
7	佐藤	FP	林長輝・172	1
4	花輪	FP	郭明堂・183	0
9	佐々木	FP	林成立・172	0
5	蒲生	FP	郭勝雄・187	4
2	穂積	FP	林世正・187	0
5	村田	FP	柯兆栄・180	0
0	松原	FP	曹国慶・173	0
40（0）		PT	（3）	13

（台湾選手横の数字は身長）

後記　竹野奉昭

○……台湾とは初対戦だったが、前日（対韓国戦）で手の内が判り、日本としては、韓国が台湾からマークしたスコアが一つの目標。

台湾は、TV中継と大観衆の声援に気をよくし、また日本の歯車がかみ合わなかったこともあって善戦、5分3—2、10分5—3と点差はあかなかった。

しかし、10分をすぎてからは佐藤、花輪の連続得点でペースをつかみ、順調に加点できた。

後半は、ディフェンスも、台湾の変則的なリズムになれて落ち着き、攻めては佐々木のスピード豊かな巧プレーを中心にほとんど1分おきに得点、15分30点目をあげた。

勝負が初めから判っていたせいか、攻防両面で凡プレーが見られたのは反省される。（監督）

前半なかばに主導権

日本の第2戦・韓国との1回戦は17日午後7時から行われた。

審判＝ロスマニス、フォーク、観衆＝五千（超満員）

日本 25（11—9、14—6）15 韓国

得	【日本】		【韓国】	得
0	本田	GK	李錦求・178cm	0
0	斉藤	GK	姜正炫・178	0
6	藤中	FP	車聖福・182	2
1	中井	FP	金成憲・169	4
6	佐藤	FP	李鍾七・173	0
6	菊池	FP	鄭亭均・178	4
1	蒲生	FP	姜和鏞・182	1
2	木野	FP	崔炳章・176	0
2	佐々木	FP	尹鍾沢・176	0
1	村田	FP	崔昌南・183	0
0	松原	FP	白根煜・173	0
0	花輪	FP	高正圭・171	4
25（3）		PT	（5）	15

（韓国選手横の数字は身長）

後記　竹野奉昭

○……結果からすれば、日本の圧勝であったが、やはり堅さがのぞいた。

2本のPTで先制したものの、韓国のミドルに追われて10分4—3とせり、そのあと木野、佐藤の巧技でペースをつかみかけたが、菊池の反則退場などあって主導権は奪い切れなかった。

しかし、20分すぎから韓国の動きが鈍り、ここで日本は一気にスパート、8点差を前半でつけた。

後半も動きに勝る日本が、12分19—8と差をつけ、勝負はここで決まった。

だが、中盤4本のPTを奪われたり、相手にいい型を許すなど守備は満点といえず、GK本田の堅守に救われる場面も多かった。

マークされつづけた藤中が、終盤たてつづけにクイックシュートを決めたほか、全員の気力がなんとか粘ろうとする韓国を押しつぶした、といえる。

韓国、台湾を押しまくる

▼台湾×韓国1回戦（15日午後7時・観衆＝三千、TV中継）

韓国 29（12—9、17—3）12 台湾

○……台湾にとって初の公式国際試合。館内は満員の観衆によって埋められた。

しかし、試合の流れは一方的、韓国の速い出足からの速攻と、固い守りに押しまくられ15分早くも8—0。

台湾は16分ようやく郭（勝）が初ゴールをあげたが、韓国は金成憲の巧技を主体に攻撃の手をゆるめず前半で勝負を決めた。

後半、台湾はスピードに乗ったプレーを見せたが、大勢をくつがえすにはほど遠かった。

＜得点者＞【韓】金成憲7、車聖福6、李鍾七、鄭亭均各5、姜和鏞、高正圭、崔昌南各2

【台】郭勝雄5、潘志鵬3、曹国慶2、黄朝嘉、郭明堂各1

第2次リーグ

日本FP陣、全員得点

日本の第3戦・台湾との2回戦は、20日午後7時から行われた。

審判＝フォーク、ロスマニス、観衆＝二千八百

日本 42（18—5、24—11）16 台湾

クウェートは棄権

本誌前号速報（付録）のとおり、モントリオール・オリンピック男子アジア地域1次予選に参加を予定されていたクウェートは、2月27日、IHF（国際ハンドボール連盟）へ「棄権」を申し出た。

【台湾】	得
GK 童建文	0
GK 董国恩	0
FP 黄明嘉	2
FP 林長輝	2
FP 林成立	0
FP 林世正	0
FP 曹国慶	1
FP 陳金富	0
FP 李麟虎	2
FP 潘志鵬	4
FP 郭明堂	1
FP 郭勝雄	4
PT	(2)
計	16

得	【日本】
0	GK 柴田
0	GK 斉藤
5	FP 蒲生
3	FP 藤中
6	FP 中井
4	FP 木野
3	FP 佐藤
6	FP 村田
7	FP 穂積
1	FP 花輪
4	FP 菊池
3	FP 松原
(1)	PT
42	計

後記　竹野 奉昭

○……日本は攻撃のリズムは極めて好調だが、守りではいぜん迫力を欠いた。

しかも、台湾は、失点を覚悟のうえで、スタミナを攻撃一本にかけるという捨て身の策戦を示し、この意表をつくベンチワークは、スタンドの地元ファンを喜ばせるに充分だった。

台湾攻撃陣は、ステップ、シュートのタイミングのとりかたが変則的で、それが日本のペースを乱す効果があった。

後半、日本は守りを固める一方

勝敗表

	日本	韓国	台湾	P	得	失
①日本	……	○○	○○	8	127	59
②韓国	●●	……	○○	4	96	73
③台湾	●●	●●	……	0	57	148

個人得点7傑

①車聖福	(韓国)	25点
②金成憲	(韓国)	23
③中井	(日本)	17
③佐藤	(日本)	17
③郭勝雄	(台湾)	17
⑥李鍾七	(韓国)	16
⑥潘志鵬	(台湾)	16

穂積、菊池がよく走り、村田の好配球などもあって一方的な展開、24分花輪が決めてFP全員得点という記録をつくった。

なお、GKは若手2人で通し、本田は44年6月30日のハンガリー戦以来、実に6年9カ月ぶり(50試合ぶり)の〝骨休め〟となった。

イスラエルが偵察

日本の第4戦(最終戦)・韓国との2回戦は、21日午後7時から行われた。

審判＝フォーク、ロスマニス、

観衆＝四千五百

日本 20 (12—9、8—6) 15 韓国

【韓国】	得
GK 李錦求	0
GK 姜正炫	0
FP 李鍾七	1
FP 車聖福	10
FP 鄭亭均	2
FP 高正圭	0
FP 金成憲	2
FP 尹鍾沢	0
FP 崔炳章	0
FP 崔昌南	0
FP 白根煜	0
FP 裵和鏞	0
PT	(1)
計	15

得	【日本】
0	GK 本田
0	GK 柴田
5	FP 中井
1	FP 佐藤
1	FP 藤中
2	FP 菊池
1	FP 穂積
2	FP 木野
1	FP 村田
3	FP 蒲生
2	FP 花輪
2	FP 松原
(0)	PT
20	計

後記　竹野 奉昭

○……スタンドにイスラエルのコーチと選手らしき人の影。

それを〝意識〟したわけではないが、日本はこのシリーズもっとも拙い攻防だった。

韓国は車がすばらしい出来で、いきなり4点を奪われ10分2—6

日本が同点(8—8)に追いついたのは21分のことであった。

これでどうにか冷静さを取り戻し、22分松原、25分花輪、26分中井とたたみかけた。

ところが、後半25秒藤中のゴールで13—9としたあと、再び車の活躍にあって5分13—13に追いつかれてしまい、場内を騒然とさせた。

ここで、韓国にもう一押しされれば、日本も苦しい局面になっただろうが、GK本田の立ち直りと中井、蒲生、穂積の連続得点で10分16—13、なんとか持ち応え、ディフェンスも態勢を立ち直して、押し切った。

それにしても、韓国のスローペースに乗せられたり、好機をシュート・ミスで逃したり、まったくよいところのない試合ぶりで、勝ったものの、後味はよくなかった。

イスラエルのリポーターたちはどのような印象で帰国しただろうか——。

なお、車聖福の通算得点は25となり、ミュンヘン・オリンピック予選(46年11月、東京)についで2回連続〝得点王〟となった。

台湾、韓国から16点

▽台湾×韓国2回戦(19日午後7時・観衆三千)

韓国 37 (20—11、17—5) 16 台湾

○……韓国は勢いよく飛び出し10分6—1としたが、台湾も15分3

さあ アジア代表決定戦

日本は、第1次予選をまずまずのデキで通過した。

余勢をかってイスラエルとの代表決定戦も、一気に突破して欲しいが、楽な展開とはいえないようだ。

過去、イスラエルとは8戦5勝1分2敗だが、テルアビブでの成績は6戦3勝1分2敗、総得点90、総得点73という数字で圧倒的優位とはいい切れない。

特に、2年前の世界選手権予選では1勝1分(14—14、18—14)と苦しんでいる。

選手たちに聞くと熱狂的な地元ファンの声援にペースを乱されるそうだ。今回は、イスラエルで初のオリンピック予選、しかもハンドボールのあとにサッカーのアジア予選(第3群)もつづくとあって、場内の興奮はこれまで以上と覚悟しなければなるまい。

イスラエル自体の国際交流は昨春以降、ほとんど伝えられていないが、パンチ力のあるレフラーがスペイン・リーグに参加しているのをはじめ、外国のクラブに出向いている選手が居ると伝えられ、侮れない。

ムードに押されて実力を発揮できぬなどという〝最悪の事態〟は考えたくないが、少くともこれまでのイスラエルと思って戦うことだけは慎しむべきだろう。

第1次予選で台湾、韓国に通算59失点したのを「緊張感の欠如」とみる人も多い。

実力では日本が数段上なのだ新たな自覚で最後の難関を、切り抜けて欲しい。

(S)

アジア代表決定戦 日本選手団

・団長　林　達夫(73才)日本協会副会長
・監督　竹野　奉昭(39)
・コーチ　東　嘉伸(38)
・選手

	選手	年齢	所属	身長
GK	①本田　洋	29才	大阪イーグルス	179cm
	⑪柴田　正章	22	本田技研鈴鹿	186
	⑯斉藤将一郎	22	日体大OB	187
FP	②木野　実	30	湧永薬品	181
	③藤中　憲二	28	大同製鋼	179
	④中井　武三	26	大同製鋼	180
	⑤佐藤　要二	26	本田技研鈴鹿	177
	⑥花輪　博	25	大同製鋼	177
	⑦松原　光三	26	大同製鋼	180
	⑧菊池　悟	23	東京12チャンネル	186
	⑨村田　幸男	22	三　景	176
	⑩蒲生　晴明	21	中　大	192
	⑪穂積　豊彦	23	湧永薬品	180
	⑬佐々木健一	26	三　景	170

・○内数字は背番号

1次予選をふりかえって・東 嘉伸

◇攻撃面　スピードを主体とする速攻、さらにタテへの切りこみと個々の前方への攻めの強さと速さを、まず第一に考えていたが、韓国、台湾がともに壁がさほど高くないため、かえって攻めが雑になりノーマークシュートのミスが多かったのは拙い。

みがきをかけている速攻はチャンスが多く成功率も高かったが、まだまだフオローが遅れ気味、パスのタイミングが崩れた。再調整を急がねばなるまい。

◇防禦面　基本であるステップシュートへの位置のとりかたの拙さから、安易にポイントを奪われたことや、シュートミスから逆速攻を受けた。

これは、攻めから守りへの切り替えと連係、不足が原因

個々では、蒲生のディフェン力上達が目立った。

全般に、外国チームとはいえ高さに欠ける相手だけに、少し「待ち過ぎ」た面があり積極性に乏しかった。GK陣は、さすが3国のうちでは抜群。

◇会場ほか　会場は大会直前に完成、タータンフロアだったが特にプレーしにくいことはなかった。

想像以上だったのは観客数普及を企て無料とのことで連日超満員(定員三千八百)。TV中継も行われ、台湾のハンドボール人気は引きあげられたようである。

また、宿舎に日本人の姿が多く選手たちは、精神的に落ちつけたようだし、試合にもかなりの日本人が声援に来てくれた。

セレモニーで日の丸が掲げられた時、彼らが君が代を合唱をしていた姿を見て、我々は、身の引きしまる思いがした。

コンディーションは、21度の沖縄(最終合宿地)から、初夏を想わせる台北へ、予想どおりの"策戦"だったが、大会後半、気候が激変、10度を下る寒さとなって慌てた。

しかし、毎度のことながら乗りこみのゲームは、いかなる条件も克服する覚悟が必要であり、この面でのたくましさが、日本選手にみられるようになったのは心強い。

テルアビブでの2試合、すべて第1次予選より厳しいコンディションと考えねばなるまい。

（コーチ）

点差に詰めた。

韓国は20分すぎから李鍾七がすばらしい切りこみを見せ台湾ディフェンスを振りまわし、あっという間に17—5、大勢が決した。

韓国は、後半も攻めまくり多彩な立体攻撃で10分25—6。

最後まで試合を捨てぬ台湾はそのあと柯、郭(勝)、曹らが好シュートを放ち、16点を奪った気力はみごとといえた。なお、この試合は、日本の安藤純光、佐野和夫が審判をつとめた。

＜得点者＞【韓】金成憲、李鍾七各10、車聖福7、姜和鏞5、鄭亭均4、崔昌南1
【台】郭勝雄、曹国慶各4、潘志鵬3、柯兆栄2、李麟虎、林長煇、林成立各1

▼全日本男子壮行試合（3月2日熊本市体育館、観衆千五百）
全日本 41（20—4、21—6）10 全熊本

アフリカは21日から　モントリオール・オリンピックアフリカ地域予選は、4月21日からアルジェで、7カ国が参加、開かれる。

この7カ国は、IHF加盟21カ国の第1次予選の勝者と伝えられる。

なお、男子と同時に、女子の「3大陸代表決定戦予選」も行われる予定だが、参加国などは未定。

史上初の五輪候補
女子も負けじと合宿

○……史上初の女子オリンピック候補選手による第1回合宿（昭和50年度第5次強化合宿）が、3月2日から8日まで東京調布市の東京重機工業体育館で行われた。

18人（GK4、FP14）の表情はさすがに緊張している。

夢にまで見る栄光の座は、非情にも「12」…。

選手たちの発奮を、さらに促すように、コーチングスタッフは「4月以降、候補選手の追加も考えられる」という

○……練習は午前中2時間半、午後4時間ときつい。

しかし、シーズン・オフにもトレーニングを欠かさなかった選手が多く、「予想以上に好テンポでスケジュールを消化した」（井監督）。

コーチングスタッフの照準は、当然のことながら6月末の3大陸代表決定戦(ワシントン)。

昨冬の世界選手権で、相手の手の内が判ったとは云え、各国の、オリンピックにかける執念は日本に優るとも劣らない。その気力が"敵"。激しい国内の代表争いはかっこうの精神強化だ。

第2回合宿（51年度第1次）は5日から18日まで山鹿市の予定。

西ドイツ，面目の代表権

～オリンピック欧州予選終わる～

チェコ、スウェーデン降す

昨秋11月以来、モントリオールへの7枚の切符をめぐって激戦をつづけていたヨーロッパ地域予選は、3月10日全日程を終了。

オリンピック2連勝を狙うユーゴをはじめチェコ、ハンガリー、ソ連、西ドイツ、ポーランド、デンマークが晴れの代表に決まった。

注目の東西ドイツ2回戦は11－8で東ドイツが勝ち、両者の対戦を1勝1敗、25－25としたもの、ベルギー戦の得失点差で西ドイツが上まわり代表権をつかんだ。

話題の多かった大会をふりかえってみよう。

（杉山 茂・NHK運動部）

ハイライトは、やはり東西ドイツの対決(第5群)。

3月6日の最終戦の結果は、めずらしく日本のファンの間でも関心を集め、私のところにも、何本かの問い合わせをいただいた。

日本協会理事長・荒川清美氏も『東ドイツは現在、世界第2位。IHF（国際ハンドボール連盟）筋は、モントリオールの金メダル最有力候補とみている。

一方、西ドイツは、近代ハンドボールの祖国という自負があり、オリンピック欠場となれば、内外への面子丸つぶれ。崖っぷちに立った両者の一戦、飛んでいってつぶさに観戦したいものだ』と云っていたほど。

東ドイツがモントリオールに行くには、対西ドイツ1回戦の3点差（14－17）を、はね返せばよい。

4点差以上の勝利は難しい注文ではなかったハズだ。

しかし、試合は西ドイツ守備陣の健斗で息詰り、3点差以上開かない。11－8、残り時間1分を切って東ドイツはPTを得た。

だが、次の瞬間、五千をこす地元ファンには信じられないことが起きた。

エンゲルのシュートが、GKホフマンの正面に飛び、そのまま試合終了―。

歓喜する西ドイツ、フロアにうずくまる東ドイツ。まさに、それは〝天国と地獄〟図絵だった。

決め手となったベルギー戦のスコアは明きらかに西ドイツ優位であった

明暗分けたベルギー回戦

西ドイツの〝優勝〟はなんといっても、昨年12月、ミュンヘンでの第1戦（第3節）を17－14でとったところに勝因がある。

一万をこす大観衆の熱狂的声援を背にうけて、「よくても引き分け」と専門家筋にみられていた一戦をよくぞ勝ったものだ。

この1戦で、第5群の流れはガラリと変わった。

東ドイツに不運だったのは、ベルギー2回戦が乗りこみで、35－18（第4節）と17点差しか開けなかったこともある。

ちなみに、ベルギー戦のホーム

第5節（2月16～28日・各地）

群	チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
▽第1群	アイスランド（2勝1敗）	18	11－5	7－7	12	ルクセンブルグ（4敗）
▽第2群	スウェーデン（3勝）	33	20－6	13－1	7	イタリア（4敗）
▽第3群	ブルガリア（1勝2敗）	16	10－4	6－8	12	スイス（1勝3敗）
▽第4群	フランス（2勝1敗）	16	9－9	7－5	14	オーストリア（4敗）
▽第5群	西ドイツ（3勝）	34	18－3	16－3	6	ベルギー（4敗）
▽第6群	ノルウェー（2勝1敗）	41	21－4	20－3	7	イギリス（4敗）
▽第7群	スペイン（2勝1分）	24	14－9	10－7	16	オランダ（1分3敗）

デンマーク、スペインに勝つ

最終節（3月6～10日・各地）

群	チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
▽第1群	ユーゴ（4勝）	23	12－10	11－13	22	アイスランド（2勝2敗）
▽第2群	チェコ（3勝1敗）	20	11－7	9－9	16	スウェーデン（3勝1敗）
▽第3群	ハンガリー（4勝）	23	11－9	12－5	14	ブルガリア（1勝3敗）
▽第4群	ソ連（4勝）	31	17－9	14－4	13	フランス（2勝2敗）
▽第5群	東ドイツ（3勝1敗）	11	4－4	7－4	8	西ドイツ（3勝1敗）
▽第6群	ポーランド（4勝）	25	12－8	13－9	17	ノルウェー（2勝2敗）
▽第7群	デンマーク（2勝2分）	23	8－7	15－9	16	スペイン（2勝1敗1分）

ゲームのスコアは東ドイツが27—11(第1節)、西ドイツが34—6(第5節)。
東ドイツは結果からすれば、ここで小差に終ったのが痛いし、西ドイツはホームゲームが後半に組みこまれていたことが幸いした。
ホーム・アンド・アウェイの明暗、日程編成の微妙なアヤ……。今回の東西ドイツ戦ほど際立った例を私は知らない。
東ドイツはオリンピック登場を坐折されたばかりか、次の世界選手権ではまずBグループから登場しなくてはならない。
全盛の大関が、翌場所は十両にまわるようなものだ。
男女揃って金メダル、といったスローガンも、まだ春の遠い東ドイツの冷めたい風に、さびしく吹かれているだろう。

ヨーロッパ予選星取表

(第1群)	ユ	ア	ル	P	得失点差
①ユーゴ	……	○○	○○	8	
②アイスラ	●●	……	○○	4	
③ルクセン	●●	●●	……	0	
(第2群)	チ	ス	イ	P	
①チェコ	……	●○	○○	6	
②スウエデ	○●	……	○○	6	
③イタリア	●●	●●	……	0	
(第3群)	ハ	ス	ブ	P	
①ハンガリ	……	○○	○○	8	
②スイス	●●	……	○●	2	
③ブルガリ	●●	●○	……	2	
(第4群)	ソ	フ	オ	P	
①ソ連	……	○○	○○	8	
②フランス	●●	……	○○	4	
③オースト	●●	●●	……	0	
(第5群)	西	東	ベ	P	
①西ドイツ	……	○●	○○	6	+39
②東ドイツ	●○	……	○○	6	+33
③ベルギー	●●	●●	……	0	
(第6群)	ポ	ノ	イ	P	
①ポーラン	……	○○	○○	8	
②ノルウエ	●●	……	○○	4	
③イギリス	●●	●●	……	0	
(第7群)	デ	ス	オ	P	
①デンマー	……	△○	○△	6	
②スペイン	△●	……	○○	5	
③オランダ	●△	●●	……	1	

日本協会の東ドイツ交流路線もこれで、女子(世界1位)招へいの線が濃くなった、と伝えられる。

ユーゴ人監督の起用

もう少し西ドイツの話題を書こう。
優勝の背景はいろいろあろうが私はV・ステンツエル監督の手腕と、彼を起用したDHB(西ドイツ協会)の英断をあげたい。
熱心な読者ならご存知と思うがステンツエル氏はユーゴ人で、ミュンヘン・オリンピックでは、ユーゴを優勝させた名将である。
ミュンヘンでメダルを逃し(6位)た西ドイツは、国技—地元という背景もあって、非難が集まり一九七四年の第8回世界選手権ではベストエイトからも転落(9位)したため、DHBへの風当りは極に達した。
この騒ぎのなかで、ミュンヘン優勝後、西ドイツの名門、フエニックス・エッセンの監督に迎えられていたステンツェル氏は、自からをDHBへ売りこんだ、と伝えられる。
父親がドイツ人であるとはいえユーゴ人を伝統のナショナルチーム監督にすえることは、DHBもさすがにためらった。
しかし、ピンチの西ドイツを救う者は、ほかにいない、との結論に達したのである。今から2年前の初夏のことだ。

若返り策の奏功

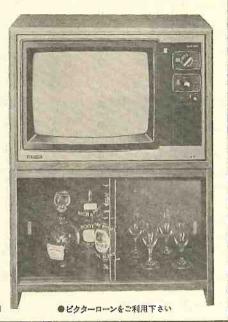
ステンツエル氏は、日本流にいえば「鬼軍曹」。その猛練習は定評があり、ユーゴでは一九六四年、まったくの地方チーム「メドベスシャク・ザグレブ」を卒いてなんとヨーロッパカップの決勝に進出させ、ナショナルでは一九七〇年の世界選手権3位、ミュンヘン優勝と成果をあげている。
西ドイツナショナルに迎えられたその日から彼は精力的に動いた。
シュミット(グンメルスバッハ)やムンク(ダンケルセン—ヒルデスハイム)〜とも に来日〜といったそれまでのスターを切り国際的には無名に近い若手中心にチームを造りなおした。さらに、それまでナショナルチームにリストアップされるのは18才以上と決まっていたのを16才まで引き下げたのは大反響を呼んだ。
東ドイツ戦に出た12人の平均年令は24・4才、公式国際試合出場が35回を越す選手はなんと4人しかいない。
若い群像に、これから4カ月、ステンツエルは、自からが築きあげたユーゴの城を崩すため、どのような策をさずけるつもりだろう。
西ドイツの出場で、モントリオール・オリンピックは、いっそう興味深いこととなった。

もつれたチェコ×スウェーデン

他のグループも活気があった。特に、チェコ、スウェーデンの激突は、ドイツ戦をしのぐ興奮を呼んだ。
チェコは、第1戦を12—14で落としていたが、第2戦はホームの利を活かせるため、有利とみられた。
しかし、3点差以上がつかなければ、イタリア戦のスコアが持ちこまれることになり、そうなるとスウェーデンが有利。
3月7日ツルナバ(チェコ)での一戦はさすがのチェコも固くなり後半10分まで11—11とせりあい、東ドイツの二の舞かとみられたが終盤ようやくペースにのって4点差、二千のファンに冷や汗をかかせつづけながら、前回銀メダルの面目を保った。
デンマーク、スペインの争いもデンマークが、オランダ戦を引き分けたことからもつれたが、最終戦(3月8日、コペンハーゲン)では、スペインにあと一押しが欠け、波乱は起きずに終った。

ユーゴ、ソ連は楽勝

意外にもろかったのはブルガリア(第3群)とノルウェー(第6群)。
ブルガリアは、緒戦でスイスに敗れて乱調となり、ノルウェーも本拠でのハンガリー戦に逆転負けし、低調に終った。むしろ第3群ではスイスの健斗が賞されるべきだろう。
ユーゴ、ソ連は楽なペースで日程を消化、ユーゴはルクセンブルグ1回戦で54点という荒かせぎ。
この両グループは、首位争いよりも2位をめぐっての攻防が面白かった。各グループ2位は次の第9回世界選手権でBグループ所属となり3位はCグループにまわるからだ。
Cは、今秋早くも大会である(11月・ファロー諸島)
第4群のフランス×オーストリア戦などは、初めからBグループ代表決定戦の様相であった。

ドロット（スウェーデン男子）10日に来日

日本協会は、恒例の「新シーズン開幕国際試合」として、今年（第6回）は、昨年度スウェーデン男子チャンピオン、ドロット・ハルムスタート（ゴランソン団長ら20人）を招き、4月11日から20日まで各地で5試合を行うことに決めた。

一行は4月10日17時35分羽田空港着、すぐに大阪入りの予定。スウェーデンチームの来日は、46年9月の男子ナショナルチームに次いで2度目。日本側は、モントリオールオリンピック・アジア予選（4月3～5日テルアビブ）を終えたばかりの全日本が横浜で対戦するほか新陣容をととのえた単独実業団が相まみえる。

全日本（横浜20日）らと5試合

ドロットのホームタウン・ハルムスタートは、カテガット海峡沿いにある。クラブの創設は一九三六年（昭11）。実に40年の球史を誇る。

しかし実力的に注目されはじめたのは、そう古いことではなく、むしろ新鋭と云ったほうが当たる過去にミュンヘンオリンピック代表で、46年秋ナショナルの一員として来日したベンクト・ヨハンソン（194㎝）や、手固いキーピングで知られるトマソン（183㎝）などを輩出。

現在のナショナル第一線にはベンクト・ハンソン（179㎝、第8回世界選手権代表）、アイナー・ヤコブソンらを送りこんでいる。

特に、25才のハンソンは、日本選手とあまり変わらぬ体格ながら3年前の第5回世界学生選手権で得点王となって注目を集め、その後、順調に成長、現代スウェーデンの最優秀選手といわれている。

このほか、ジュニア・ナショナルの中心選手・アブラハムソン、G・ベンクトソン、カールソンらイキのいい若手を揃えており、ヨハンソン、ヤコブソン、GKトマソンらベテランとの、みごとな調和をチームカラーにしているようだ

日　程（全5戦）

・第1戦　4月11日14時30分対湧永薬品（大阪市中央体育館）
・第2戦　13日18時、対本田技研鈴鹿（四日市緑地公園体育館）
・第3戦　15日18時、対大同製鋼（愛知県体育館）
・第4戦　17日18時30分、対大崎電気（駒沢屋内球技場）
・第5戦　20日18時45分、対全日本（横浜文化体育館）

アイナート監督は、46年スウェーデン・ナショナルのコーチとして来日した人。対日本戦法には自信があることだろう。

波に乗っての初優勝

スウェーデンのチャンピオンシップには、すこし説明がいる。ヨーロッパのほとんどの国は、全国リーグの優勝チームが、チャンピオンチームの栄冠に輝やき、ヨーロッパ・カップへの出場権を与えられるわけだが、スウェーデンだけは、全国リーグ（10クラブ2回総当り）は単にリーグ優勝を決めるだけ。ナショナル・チャンピオンは、リーグ上位4チームによる勝ち抜き戦（チャンピオンシップ）の勝者が就くシステムを採っている。いわゆるプレー・オフだ。

昨シーズン（49年秋～50年春）、ドロットは、リーグでは18戦9勝1分8敗で4位に終ったが、チャンピオンシップでは準決勝でリーグ1位のフリヨル・ヨテボリを、決勝で同2位のIFK・クリスチャンスタットをみごとに破り、初の〝王位〟を獲得したのである。

この勝利は「大波乱」として各地に伝えられ、ドロットを一躍、ヨーロッパのトップチームに仲間入りさせることにもなった。

波にのせたら怖いものなし――という定評の肯ける試合ぶりである。

来日メンバー（予定）

▽監督　K・F・アイナート▽コーチ　T・オルソン▽GK◎トマソン、アスベルグ▽FP　アブラハムソン、◎B・O・ベントソン、ブローマン、バイストリョーム、◎ハンソン、◎ハッセルベルグ、◎ヤコブソン、◎ヨハンソン、カールソン、ルンド、ノルマン、◎ヨハンソン、G・ベントソン

◎印はナショナルプレイヤー

今シーズン（50年秋～）は、初出場のヨーロッパカップでは、ベスト16（2回戦）で、フレデンスボリュー・オスロ（ノルウェー）に16－16、18－19で惜敗している。

しかし、オスロが準決勝進出をはたしたことから推せば、ドロットの実力も相当なもの。

スウェーデン・リーグは、本誌は1月第2週までの結果を得ているだけだが9戦3勝2分4敗と苦しい。

グラノリエルス好調

昨春の新シーズン開幕国際試合に来日したバロンマノ・グラノリエルス（スペイン、男子）は、今シーズンから始められた「ヨーロッパ・カップ・オブ・カップス」に出場、好調な試合ぶりでベスト4に勝ち残り、近く決勝進出をかけて、オプサル・オスロ（ノルウエー）と対戦する。

世界へはばたけ日本のハンドボール
（協賛者御芳名）

◇愛知県実業団ハンドボール連盟加盟会社及び団体◇

アイシン精機株式会社
新日本製鉄株式会社　名古屋製鉄所
自衛隊春日井
大同製鋼株式会社
中部電力株式会社
トヨタ自動車工業株式会社
トヨタ車体株式会社
トヨタカローラ愛知株式会社
豊田自動織機株式会社

豊田工機株式会社
豊田合成株式会社
株式会社トーメン名古屋支社
日本碍子株式会社
パイロットインキ株式会社
伏原紡織株式会社
ブラザー工業株式会社
三菱自動車工業株式会社
名古屋自動車製作所

（アイウエオ順）

ＩＨＦ、歯切れの悪さ

ＡＨＦ結成説明会議

ＡＨＦ（アジア・ハンドボール連盟）結成のいきさつを説明するため、ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）が招集した「極東７ケ国会議」は、３月13日午前10時からホンコンのミラマー・ホテルで開かれた。

日本協会・荒川清美理事長をはじめ、韓国、ホンコン、台湾の代表者が出席、朝鮮民主々義人民共和国（北朝鮮）、インド、オーストラリア（ＩＨＦ準加盟国）は、姿を見せなかった。

ＩＨＦからは、Ｍ・リンケンバーガー事務総長（西ドイツ）、渡辺和美アジア選出理事（日本）が出席し、リンケンバーガー氏から「ＡＨＦ結成会議」（１月14日、クウェート）の経過が説明された。

それによると、同会議には、アジアでハンドボールを行っている12カ国（このうちＩＨＦ加盟８カ国）が参加、ＩＨＦが提案していた「アジア二分（極東・近東）案」を蹴って、ＡＨＦ結成に持ちこんだ。

ＩＨＦ（リンケンバーガー氏）は、あくまで「二分案」の採用を求めたが、〝アジアは一つ〟とする結束を破ることはできず、アジア地域のＩＨＦ加盟12カ国のうち８カ国が参会していたこともありＡＨＦの旗あげが成った。

ＩＨＦは、５月の理事会を経て10月スペインで開く第16回通常総会で正式承認する意向、という。

このあと、リンケンバーガー氏は『日本など現在ＡＨＦに加盟していない国も、その手続きをされたい』と述べたが、日本、ホンコンなどは、昨年５月、ＡＨＦ準備会議招集の際、ＩＨＦや渡辺理事が日本をはじめ各国に対し、出席の必要はない（＝本誌130号参照）としながら今回、事態が急転回した展望のなさを追求。これに対するＩＨＦ側の回答は、役員問題を含め、極めて歯切れの悪いものとなった。

しかし、荒川理事長は、帰国後の15日、『ＡＨＦ結成は、常識的な〝結論〟であり、これ以上ＩＨＦを攻撃するつもりはない。

日本協会も４月中に加盟届を出すことになろう。加盟に際して行う役員の派遣（登録）は一切白紙だ。』と語っており、少くとも日本は、この問題に関して収束の見通しをたてたといえる。

荒川理事長は、３月27日の月例常務理事会で正式報告を行なう。

なお、今回の会議で、イスラエルのヨーロッパ移行（復帰）が、ＩＨＦ内の小委員会で検討されはじめたことが明きらかとなった。

＜資料＞▽アジア地域でハンドボールを行っている国（○印はＩＨＦ加盟国）バーレーン、中国、○ホンコン、○インド、○イラク、○イスラエル、○日本、○ヨルダン、○韓国、○クウエート、○レバノン、パキスタン、パレスチナ○朝鮮民主々義人民共和国、○サウジアラビア、○台湾、オーストラリア（オセアニア地域・ＩＨＦ準加盟）

日韓高校、今夏東京で

日本体協は、このほど今夏の日韓高校交歓スポーツ大会を８月20日から23日まで、東京と千葉でハンドボール、体操など９競技を行うことに決めた。

ハンドボール（男子第10回、女子第３回）は、８月21、23日の２日間、東京・青山学院体育館で、韓国高校チャンピオンを迎えて行われる予定。

日本側は男女とも21日が東京代表、23日が第27回全日本高校選手権優勝校となる模様。

なお、昭和42年から日本体協と大韓体育会によって進められていたこの事業は今年度が最終回となる。

来年以降は、41年までと同ように、各競技団体別に交流していくかどうかを決める。

ハンドボール界の姿勢は未定である。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

株式会社　東口電機製作所
社長　東口武雄
奈良市二名町 2603
TEL　0742—44—6161

中川石油株式会社
〒020　盛岡市菜園1丁目7番17号
電話（0196）23—(代)3241

医薬品並に健康関連総合商社
（株）小田島
本社　花巻市上町6—5　〒025 TEL01982-3-5162(代)
営業所　花巻，盛岡，水沢，一関，大船渡，釜石，宮古，久慈，青森，八戸，弘前，むつ，仙台，石巻，古川，気仙沼，秋田，大館，横手

うつくしく　うつくしく　よりうつくしく
Wacoal
ワコール

コロナとマークⅡの
岩手トヨペット
本社　盛岡市上田2丁目　TEL(51)3211（代）

株式会社　久保田鉄工
代表者　久保田　広一
八尾市南本町四丁目九番一九号
TEL0729—23—0292

上田茂行

東海溶材株式会社
本　社　清水市北脇242
支　店　浜松市下石田町1743の1
営業所　小山，東京，相模原，三島，富士，三保，焼津，大井川，掛川，豊田，名古屋，四日市，大阪，富山，広島

株式会社　横山商店
横山　豊
（第3回インターハイ準優勝清水商高主将）
清水市渋川468　TEL0543—45—3482

アサヒスポーツ
福井市松本3丁目4—2
TEL　0776—23—2555

広島県ハンドボール協会長
川上病院
広島市曙町2～33
TEL0822—61—3782

富士重工指定スバルサービス工場
（有）野田商会
野田　勉
（第9回インターハイ優勝清水商高選手）
清水市万世町1丁目69　TEL0542—52—6750(代)

学生衣料製造卸
株式会社　島屋
高岡市間屋町41

北陸電力株式会社
福井支店
福井市日之出1丁目4番1号　〒910
電話（0776）㉓1212番（代表）

屋内外電気工事設計施工
火災報知機設備施工
伊藤電機設備株式会社
代表取締役　伊藤仁和
福井市順化2丁目2番1号　〒910
TEL　営業部(0776)22-7800(代)　工事部21-2266(代)

ヨーロッパの味
タキザワハム
取締役社長　滝沢　武

ブリヂストンタイヤ（株）彦根工場
〒 522-02
滋賀県彦根市高宮町211番地
TEL（07492）2-8111 代表

不動産の　カントラ　大阪・堺
TEL　0722—33—0003
0722—22—2103
フドウサン

日本リーグ 9月4日に開幕予定

男女とも1回総当り

「日本ハンドボールリーグ」が、いよいよ滑り出した。

日本協会は、3月に入って加盟候補チームへの手続き、日程原案の作成など活発な動きを示し、4月下旬には、リーグの全責任をおう運営委員会発足の見通しとなった

注目のスケジュールは、9月4日から26日までの10日間（土、日曜と祝日）に決まり、47都道府県協会へ、開催の意向が質されている。

会場費、役員（リーグ本部・審判）費の一部、運行費それに開催権料（1試合2万円の予定）だけという〃好条件〃だけに、かなりの希望が寄せられるものとみられる。

一部に、体育館確保が、5ケ月前というこの時期では難しいのではないか、と危惧されているが、試合数も少なく「短時間(半日)借用」ですむなど、どうにか折り合いがつく感じだ。

試合法式は、初大会から2回総当りを望む声もあったようだが、結局、今年度は、男女とも1回総当りで行うことに決定、男女8チームづつ勢揃いした場合も、総試合数は56という〃短期戦〃である

大崎電気などエントリー

内外の関心を集めている加盟チームは、本誌既報(前号)後、東京協会から男・早大、女・日本女子体大、愛媛協会から男・住友化学菊本が推せんされ、最終的にノミネートを受けたチーム数は、男子26(早大は全日本学連と重復)、女子18（このうち田村紡は廃部）となった。

加盟届の提出期限は4月15日とされ、本誌〆切り（3月23日）からまだ日があるが、早くも3月15日に大崎電気男女（埼玉）がエントリーしたのを皮切りに、立石電機（熊本）も届出をすませた。

残念なのは、男子・第1ランクの中大(東京)が、「加盟の方向で考えてみたが、やはり、財政面、学業との両立などで辞退することになろう」（吉近マネ）。

他の学生勢も、今のところ参加の見通しが暗いようだ。

注目集める運営委員会

リーグの運営は、いっさい日本協会内に新設される「日本リーグ運営委員会」（注・運営委員会規程の全文は次号に掲載の予定）の手によって行われるが、その人選も注目の的。

運営委員会は、日本協会推せん委員若干名と、加盟チーム各2名によって編成され、委員長1名、副委員長3名以内が互選で決まる

ヨーロッパでは、全国リーグの人事ともなれば、スポーツジャーナリズムに華々しくとりあげられるほどの重要ポスト。

日本協会でも、将来は、運営委員長ら幹部は有給の専門職にしなければ、事業の完遂ができまいとみているほどだ。

いまのところ、第1回運営委員会の招集は4月24または25日が有力である。

選手スタンド一体で盛りあげを……青木敬子

〃待望〃とも言うべき日本リーグ誕生が決定した。

いろいろな問題にぶつかりながらもここまでたどり着いたことはたいへんうれしいことである。

名実共に日本のハンドボール界をリードしていくという新たな認識を持って選手は臨んでほしい。

またこれをきっかけにおとなしすぎると言われてきた見る立場のファンも、日本リーグを盛り上げるために会場へ足を運んで大いに声援をおくってほしい。

せっかくリーグを発足させても今までのように選手だけがコートでポツリとやっている感じでは、ハンドボールのイメージダウンにつながる恐れがある。

マスコミになかなかとりあげられないのも選手と観客が一体となっていないからではないだろうか

もちろんそれだけが原因とは言えない。

しかし、ファインプレーにしてもラフプレーにしても、ただ無言で見ているのは寂しい。

「外国の〃ブーイング〃の如く」と言うのはあまりに極端としてもハンドボールは黙って見ているスポーツではなさそうな気がして。

なんといっても一年目が大切であることは言うまでもない。

日本のハンドボールが今まで得られなかった手ごたえがつかめるか否かの問題なのだから

運営面などもこれまでの大会になかった選手の紹介、得点経過などちょっとした心遣いをお願いしたい。

日本リーグの発展は、あらゆる人の協力が必要である。

みんなの手で盛り上げたい。

（本誌編集委員）

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

第15回 IHF審判講習会に出席して

岡前　義春

2年に1度開催される、IHF主催の国際審判講習会に出席した報告は、すでに5回にわたって機関誌で報告してきました。最後に講習会に参加して感じたことなどを述べ講習会の報告を終らせていただきます。

前回ブルガスで実施された講習会とは内容が異なっていた。それは、各国のチーフレフェリー会議とIHF推せんの、選抜レフェリーの会議および実技研修であった

この選抜レフェリーは、各国から45ペア90名の国際審判員であるこの選抜レフェリーの中には、地理的な経済的条件、又その他あらゆる理由があったであろうが、アジア地区からの名前が一人もなかったことは残念でならなかった。

IHF国際審判員の運営（テストによる成績、又過去の実績などから、各大会の審判員決定。）などを考えると、我が国においてもこの選抜レフェリーに加わるような若さあふれる国際審判員にふさわしいペアを養成することが急務であると思われる。実際に選抜レフェリーの中から数ペアの笛を吹くところを見たが、これが各国からの選抜された国際的レフェリーかと考えさせられる技術的な面、態度など多かったことは実感であるいかに国内で優れた態度、技術を身につけていたとしても、ヨーロッパのレフェリーのようにIHFのRSKに接する機会がなければそれも認められないだろう。この現状を確実に把握して、ナショナルプレイヤーを育成する一方では国際審判員の養成を考えなくてはならない。それには、チームが外国遠征を計画するとき、国内で充分に養成研修を積んだレフェリーのペアを派遣して、国際ゲームの経験を積ませRSKにその審判技術を認めさせて選抜レフェリーに加えられるように配慮することが今後ハンドボールを世界に躍進させる一歩であろう。

故エミール・ホルレ氏の講演で報告した「相手への接近」ラフプレイについては国内の講習会や研修会においても問題にされている点がある。例えば、片手または両腕で相手のプレイヤーをつかむこと、妨害すること、相手を押すことなどは、ルールブックの文章を読めば禁止されていることは、誰もが理解していることである。しかしながら、実際のゲームにはこれらのプレイが多く見られる。それは何故であろう。「指導者の在り方」と「ルールの適用」であるどんなことをしてもゲームに勝つよう指導するならば、プレイヤーに悪影響をあたえることになる。レフェリーもまたプレイヤーが正しくスポーツ精神に基づいてゲームができるようにルールの適用について研鑚しなければならない。国内大会においても、特にラフプレイ、非紳士的な行為に対してレフェリーは、勇敢かつ厳正に警告退場、追放、失格の罰を課すべきである。それによってハンドボールの特性、「スピードと優雅さ」が生れることになる。

M・リンケン・バーガー氏は「チームプレイの競技では、ルールがわかりやすく、プレイの全貌をつかみやすくし、そして簡単明瞭であることが観衆の獲得に成功する最大要件である」ことを明らかにしている。ルールブックを見る度に考えさせられるのが、日本の註釈が多いことである。競技規則が新らしく講習会に説明されると必らずといってよいほど、文章の表現や新らしい問題があればそれを犯したときには、罰はどうなのか？といった取り締るための条文が加えられるような意見がありそれが日本の註釈となっている。

IHFでもルールは簡単明瞭なものにする今、他の註釈を加え取り締るためのルールであるかのような傾向は、今後慎しむべきではないだろうか。

レフェリーもプレイヤーもルールと註釈を充分に理解して感情に流されることとなって、ルールに忠実でその適用をあやまらないことである。

今一つヨーロッパでは、ハンドボールのみのレフェリーに終らず他の種目のレフェリーも兼ねて、レフェリー業に徹している者がいるようだ。

吾々も井の中の蛙にならず、少なくとも他種目のレフェリングなど参考にして一層の研鑚を積むことが必要であると感じた。

競技者の底辺拡充の普及面と、トップレベルのナショナル・プレイヤー育成の技術面と併せ、若さあふれる国際審判員の養成を強く考える審判面の重要性を皆様に訴えると共に今後のご協力を切望します。

最後に講習会参加に際しまして全国の皆様から温かい熱意とご支援を賜りましたことを深く感謝し厚くお礼申し上げまして、IHF審判講習会の報告を終ります。

ますます緊追の日本協会財政

解説

日本協会は、2月22日の定期全国代議員会で、昭和51年度予算案を本誌既報のとおり承認した。

49年度に、史上最高の欠損をよぎなくされ、50年度の事業緊縮と、組織協力金、役員協力金の徴収で、どうにか軌道修正の見通しは立ったものの、繰り越し金までは望めず51年度も引きつづき目いっぱいの数字だ。

予備費はわずか29万円がはじき出されただけで、収入予算が少しでも狂えば、それだけで、再び赤字にのめりこむ〝綱わたり〟的な予算編成である。（編集委）

全国会議を前にした2月22日午前中の月例常務理事会は、日本協会財政の苦脳を投影するものであった。

物価の高とう、事業の拡大、オリンピックイヤーという三方からの攻勢に、財務委は、登録金の値上げ以外に活路なしの〝結論〟を提出したのだが、荒川清美理事長は、この提案にまっこうから反対し現状維持、登録料据おきを強調財務担当者と理事長の対立という異例の展開になったのである。

荒川理事長は「①都道府県協会に加盟金のほか組織協力金（A10万円、B3万円、C1万円）を引きつづき残す以上、チーム登録料の増額は妥当ではない。

②50年度に強行した組織協力金の上のせ（47都道府県協会一律10万円）と役員協力金が、まだ完納されず、51年度の負担として各筋に残っている」の2点をあげた。

これに対し、財務委は、1月末に提出された各部（専門委）からの予算請求総額約三千二百万円（＝次頁（ ）内額）を、およそ1カ月がかりで削りとってどうにか約一千万円を〝整理〟したものの、それでも編集委員会費を除いて約二千三百万円の財源が必要、来年度以降の長期展望に立つうえでも値上げはやむを得ないとの判断に立っていた。

結局、財務委が折れ、事業を縮少しても、チームへのはね返しをさける、ということで全国会議直前、意見の一致となった。

ヤング全日本、再び見送り

この緊縮で、50年度につづいて「ヤングナショナルの強化」事業が見送りとなったほか「審判員養成コース」も、このままではスタートが1年遅れる。

「男女ナショナル強化」にしても、モントリオール以降は、まったく計上されていず、渡辺慶寿技術部長は「来年、早くも世界選手権の予選があるというのに」と表情をくもらす。

このほか、全国代議員会の旅費支給は当分おあずけとなり、高体連助成金や全国中学生大会の増額も見送られた。

IHF（国際ハンドボール連盟）通常総会への渡航補助費は、日本体協から支給されればとの条件つきだ。

本誌の刊行にしても、作成費が縮少されたうえに、収支のバランスでは初手から157万円のプラスがノルマとされている厳しさである

また、各部の予備費は一括、いわば〝封印〟されたかたち。しかも29万円という一つ突発事業がおこれば消費するギリギリの額。もっとも、50～51年度にまたがる組織協力金と役員協力金の納入が、順調に進めば、350万円程度が、別表の収入予算外にあがってくる勘定だが、補正時（6～10月）には通信費をはじめ、この額をめぐって各部の争奪戦が予想される。

オリンピック女子3大陸代表決定戦の経費は、特別会計とされるが、JOC（日本オリンピック委）からの補助は、200万円程度とみられ（それも勝った時のみに限られる）30万円前後の個人負担はさけられない。

登録料依存に不安の影

何から何までの切詰ムードは、全国代議員会でさすがに問題となり、いったん用意しながら前述の経過でひっこめた財務委の登録料値上げ案を検討しなおしたらどうか、との動議が出されたほど。

しかし、仮に登録料を上げたところで、財政問題の抜本的な解決にはならない、という空気が強くすでに昨年あたりからいわれつづけている「組織・チームへのはね返し」姿勢の限界が、再び三たび浮き彫りにされただけであった。

消息通によれば、来年度は四千万円近い予算請求となりそうだしごく近い将来、五千万円の予算編成必至、という。

そうなれば登録料を一般A一万

昭和51年度収入予算（円）

項目	金額
加盟金	1,190,000
組織協力金	1,060,000
チーム登録金	4,294,400
個人登録金	986,200
オリンピック基金	750,000
日体協競技力向上費	1,890,000(推)
スポーツ振興金	600,000(推)
検定料・ボール	3,750,000
検定料・ネット	950,000
審判審査料	350,000
競技規則書売上	1,350,000
機関誌購読及広告料	9,090,000
総計	26,260,600

円（現行四千円）にしても、追いつくまい、とみる。

大勢力・高校界は、物価高を見込んでも登録料の限度額は二千円といわれ、ある高校関係者は「他競技と比べたらハンドボールは高すぎる。現行千五百円をあと5年は据え置いて、他とのバランスをとって欲しい」といっている。

また、日本体協の「国体への参加は、競技団体の登録者(チーム)に限定しない」との新構想が、もし実現されるようならば、一般チームの〝離脱〟が、かなりの数にのぼるものと予想され、収入減という打撃をうけることにつながってくる。

登録料依存に不安を抱かす影はいっそう濃くしのび寄っているのだ。

事業収入阻む〝不況〟

もちろん、財務委も手をこまねいているわけではない。必死だ。

役員手帖、役員バッヂ、選手手帖の作成(領布)、ハンドボール・バッグ、同タオル、同シャツの販売など事業部門の拡充と実現を会議に持ち出しているし、田村正衛会長は「男女強化費を企業チームに全面依存する」とまで口にしている。

だが、現実の流れは、不況も手伝って日本協会の皮算用を簡単にのみこむほど甘くはない。

例えば、新財源として期待をかけられた「日本リーグ」開催権料にしても、51年度収入予算では0という数字が打ちこまれている有様だ。

1試合2万円の開催権料に対する〝感触〟が、もう一つピリッとしないからである。

112万円（56試合・最高額）を得た場合も、今年度は〝臨時収入〟なのだ。

新シーズン開幕国際試合の分担金・開催権料にしても、年ごとに開催地側の体制は渋くなっている

周到な計画で〝説得〟を

八方ふさがりの中で、それでは突破口をどう見出していくか。

ある代議員は『わけもわからず値上げに反対し、募金に協力しないわけではない。

みんなが納得できる事業なら大いにバックアップしたい。その意味では、登録金依存であってもよい』という。

この考えは多い。

別の代議員は『値上げしようとするにしては方法が拙い。少くとも秋までに次年度の事業計画をまとめ、予算案を作り、各県協会に理解を求めるならば必ず協力を得られるだろう』とみる。

たしかに、日本協会のこれまでの予算審議のコースは、再考されてよい面がある。全国会議でいきなり値上げ案では、反撥ムードが支配的になってしまう。

荒川理事長も、この点の反省を忘れず各部に対し52年度事業は、今秋までに提出するよう呼びかける意向だ。

また、一つのオリンピアード（あるオリンピック大会から次のオリンピック大会までの4年間）を基準として、事業計画の長期発表も心がけたい、としている。

これらが実現されれば、いつ、どこで、なにに、どれだけお金がかかるかを目論みられよう。

新しい財源探しとともに、日本協会の体質・姿勢・感覚の改善が案外、財政危機突破の近道かもしれない。

もし、そうであるならば、それは明日からでも手をつけられることであり、執行部としては、何をおいても踏み切るべきではないか

それともう一つ。「古い」といわれるかもしれないし、話を振り出しへ戻してしまうかもしれないがアマチュア・スポーツは、各人の出し得るお金の範囲で活動するのが基本原則である。

中央、地方を問わず忘れてはならないことだ。

昭和51年度事業予算（　）内請求額＝本誌調

項目	予算額	（請求額）
◇総務部		
〔事務費〕		
人件費	3,548,500円	(3,760,600)
借室料（含光熱）	840,000	(840,000)
文書印刷費	650,000	(700,000)
通信費	990,000	(1,680,000)
消耗品費	180,000	(290,000)
職員交通費	180,000	(180,000)
〔国際交流事務費〕		
オリンピック	250,000	(500,000)
東ドイツ交流	250,000	(300,000)
〔加盟金〕		
ＩＨＦ	220,000	(220,000)
日本体協	100,000	(100,000)
〔会議費〕		
全国代議員会	100,000	(1,000,000)
全国理事会	400,000	(700,000)
月例常務理事会	480,000	(600,000)
〔渉外費〕		
国際渉外	50,000	(100,000)
国内渉外	250,000	(360,000)
ＩＨＦ総会派遣補助	0	(240,000)
小計	8,488,500	(11,070,600)
◇企画部		
〔事業費〕		
全日本総合	100,000	(100,000)
全日本学生	100,000	(200,000)
全日本高校	100,000	(200,000)
全日本高専	100,000	(100,000)
全日本教職員	100,000	(100,000)
全日本自衛隊	100,000	(100,000)
全国実業団	100,000	(100,000)
全日本総合事務費	100,000	(100,000)
全日本総合表彰費	80,000	(80,000)
各大会レプリカ	70,000	(72,000)
日本リーグ準備委	50,000	(100,000)
日韓高校補助	200,000	(200,000)
全国高体連助成金	100,000	(300,000)
全日本高校審判補助	60,000	(72,000)
国体本部予備	0	(100,000)
小計	1,360,000	(1,924,000)
◇総務・企画合同		
来日外国関係接待	50,000	(50,000)
総務企画委員会	20,000	(100,000)
小計	70,000	(150,000)
◇財務部		
公認会計士委嘱料	240,000	(240,000)
監査経費	20,000	(30,000)
財務委員会費	170,000	(200,000)
小計	430,000	(470,000)
◇技術部		
男子ナショナル合宿	1,000,000	(1,400,000)
男子ナショナルＢ強化	0	(300,000)
ヤングナショナル経費	0	(300,000)
女子ナショナル合宿	1,000,000	(1,524,400)
国内大会派遣研究	900,000	(900,000)
「ドロット」転戦費	0	(250,000)
小計	2,900,000	(4,674,400)
◇審判部		
競技規則書作成	750,000	(800,000)
審査委員会	110,000	(110,000)
公認審判員中央研修会	230,000	(230,000)
審判部合同会議	320,000	(350,000)
全日本大会審判員研修会	45,000	(50,000)
競技規則研究委	42,000	(48,000)
公認審判員研修会	180,000	(180,000)
Ａ・Ｂ級審判員審査	141,000	(141,000)
審判員養成コース	0	(100,000)
小計	1,818,000	(2,009,000)
◇普及指導部		
ハンドボール相談室	480,000	(480,000)
第３回教員養成大学	650,000	(650,000)
国内大会派遣研究費	100,000	(100,000)
小中学指導者講習会	100,000	(200,000)
部会議費	550,000	(550,000)
〔中学委員会〕		
全国中学生補助	700,000	(1,000,000)
小計	2,580,000	(2,980,000)
◇特別委員会		
〔３部合同会議〕		
会議費	50,000	(50,000)
〔編集委員会〕		
機関誌作成費	7,518,000	(8,250,000)
小計	7,568,000	(8,750,000)
総計	25,214,500	(32,028,000)
予備費（財務部扱い）	296,100	
オリンピック基金積立	750,000	
51年度総額	26,260,600円	

インター・ハイ
ハンドボール選手の体力の実態 (5)

全国高体連ハンドボール部
≪発表者・北岡大覚≫

全国高体連ハンドボール部ではインター・ハイに出場したなかでベスト16に出場する選手たちを対象に、試合のあいまをぬって体力測定を実施してきた。

これまでの調査の中で明きらかになったことは、次の点にあると思われる。

1、ハンドボール選手の体力の特徴からハンドボールを教材とした場合に高められる体力の特徴が示唆された。

2、ナショナルチームをささえるインターハイ・ハンドボール選手の体力の水準及びナショナルチームに継続する体力の水準が区別され、明きらかにされた。

3、優秀ハンドボール選手の体力の特徴がとらえられた。

4、高校優秀選手とナショナル選手の体力が比較され、高校選手の体力の到達目標が明きらかにされた。

そこで、今回これまで述べられた諸問題をふまえながら、我国の地域別からみた高校選手の体力の特徴をとらえてみることにした。

〔方法〕今回あつかわれた分析資料は、これまで全国高体連ハンドボール部が、測定値を集積してきた昭和43年からこれまでの資料に加えて、さらに今年度測定したものを加え、分析の対象とされた。

簡単にその内訳を述べれば8年間に男子選手は合計560名に及び、女子選手は588名、したがって総合計一、一四八名となる。

測定方法は、これまでに述べたので、ここでは割愛したい（編集委注・本誌111号、122号など参照）

おことわりしておきたいのは、ここで述べる〝地域〟の分類は、国民体育大会で区分される地域割りを採用した。

〔結果〕第1表(下掲)は、地域別にみた各体力の形態の測定項目の平均値及び標準差が示されている男子のものである。右欄には、測定対象人数と、参考のために各地域別の加盟チーム数が男女別に、また合計値として示されている。

第2表(次頁)は、同ようにして男子の機能の測定値をまとめたものである。

まず〈形態〉について分析を試みたい。

図1(次頁)は、男子の形態について記してある。

原点である身長168・4cmと体重58・1kgは、文部省から報告された全国平均値(=昭和49年度、16〜17才平均)を示している。

各地域別の体重に対する身長の平均値がそれぞれプロットされている。

斜線はローレル指数を表わしている。この図をよくみると、体重が少なく、身長の小さい地域は、まず九州、ついで関東、東海とつづいている。

一方、大きい地域からは、東北が身長、体重に於いてズバ抜けて大きく、次いで中国、近畿、四国とつづいている。

これらをローレル指数からみれば東北が一番大きく、九州が一番小さい、ということがわかる。

いずれにしてもローレル指数でいえば130〜120の範囲内に平均値があるということがわかる。

こうみれば、各地域の平均値は170〜172cmの範囲内にあり、体重では60・5〜65kgまでの範囲内にあるということがわかり、全国平均値からいえば、最低の値を示す地域でも身長が2cm大きく、体重では約2・5kgの差を示している。

男子形態・全インターハイ選手地域別平均値と標準偏差値　〔第1表〕

地域	測定項目／平均偏差	身長	体重	胸囲	指先長	手長 右	手長 左	手幅 右	手幅 左	測定人数	加盟チーム数 男	女	計
北海道	M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30	14	44
	S.D	—	—	—	—	—	—	—	—				
東北	M	172.6	64.9	89.9	218.2	18.5	18.6	21.1	21.1	63	68	48	116
	S.D	5.8	6.6	4.6	8.1	0.8	0.8	1.2	1.2				
北信越	M	171.0	62.7	89.8	216.1	18.5	18.5	20.8	20.6	35	54	31	85
	S.D	5.1	5.2	3.5	7.1	0.8	0.8	1.4	1.5				
近畿	M	171.5	63.3	88.3	216.3	18.5	18.4	20.7	20.8	98	156	100	256
	S.D	5.0	5.6	4.5	7.4	1.0	0.9	1.2	1.0				
中国	M	172.0	62.9	89.7	219.1	18.6	18.6	21.4	21.3	63	53	35	88
	S.D	5.6	6.1	5.1	8.6	0.8	0.8	1.3	1.2				
東海	M	170.9	61.7	86.4	216.4	18.4	18.4	21.1	21.1	70	109	94	203
	S.D	5.2	6.1	3.9	7.1	0.9	0.9	1.2	1.2				
関東	M	170.9	61.5	89.4	216.2	18.5	18.6	21.0	20.8	126	232	153	385
	S.D	5.1	5.7	4.0	7.4	0.9	0.9	1.2	1.1				
四国	M	171.4	63.0	89.9	217.1	18.1	18.2	20.5	20.6	21	44	27	71
	S.D	4.7	3.7	4.5	6.3	0.8	0.8	1.2	0.9				
九州	M	170.3	60.7	87.6	214.8	18.5	18.6	21.1	21.0	82	107	75	182
	S.D	5.9	6.1	3.9	8.9	0.9	0.9	1.2	1.1				

各項目に進もう。まず筋力。握力における測定では、文部省平均値46・3kgを基準に考えると北信越、近畿、四国が下まわっている。

中国が48・9kgと抜群で、2位の東北とさえ1・9kgの差がある。

脊筋力は全国平均134・5kg(文部省)で、すべての地域がこれを上廻り、ここでも中国がすばらしい。

総合筋力指数として、キュアトンは左右脚力、左右握力、背筋力の総合計をもって〃総合筋力〃としている。

我々は限られた測定条件のなかで測定したから、握内と脊筋力しか測定していない。

しかし、キュアトンの考えかたにしたがって左右握力と背筋力の合計をもって総合筋力指数としてとらえてみた。

男子機能・全インターハイ選手地域別平均値と標準偏差値 〔第2表〕

地域		握力平均	背筋力	反復上体おこし	立位体前屈	伏臥上体そらし	垂直とび	反復横とび	9m三往復走	踏台昇降	測定人数
北海道	M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	S.D	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
東北	M	47.3	144.0	21.7	14.1	55.6	61.9	44.8	14.0	85.6	63
	S.D	5.9	23.0	2.0	5.9	6.5	6.0	3.9	0.6	9.6	
北信越	M	44.6	135.2	22.1	15.5	60.1	61.3	43.6	14.4	92.4	35
	S.D	5.9	18.8	2.2	4.2	6.3	6.0	4.2	0.7	16.5	
近畿	M	45.9	143.5	22.3	12.7	58.9	60.5	45.3	14.1	90.7	98
	S.D	5.0	21.5	2.4	5.5	7.0	7.4	4.5	0.6	11.5	
中国	M	48.9	153.3	23.3	14.5	63.4	65.1	46.2	13.9	92.3	62
	S.D	8.1	23.5	2.4	4.9	5.4	5.8	4.6	0.4	12.3	
東海	M	46.7	142.5	21.6	13.5	60.1	61.6	45.8	13.9	89.1	70
	S.D	4.9	25.9	2.4	5.0	6.8	6.2	3.9	0.4	10.9	
関東	M	46.8	151.0	21.8	13.3	56.2	61.7	45.0	14.0	90.4	124
	S.D	6.2	24.9	2.6	5.5	7.3	5.8	3.8	0.6	11.1	
四国	M	45.5	146.1	22.9	13.9	59.3	65.0	46.0	14.2	92.8	21
	S.D	4.5	20.0	2.0	4.9	8.3	7.6	3.8	0.4	9.3	
九州	M	47.0	149.9	22.0	13.6	56.1	64.6	44.4	14.0	81.7	83
	S.D	6.2	26.7	2.4	5.4	7.3	6.5	3.9	0.6	10.2	

◇総合筋力指数中国202・2kg、関東197・8、九州196・9、四国191・6、東北191・3、近畿189・4、東海189・2、北信越179・8。文部省全国平均値180・8kg。

〈柔軟性〉についてみると、立位体前屈では全国平均地16・4cm(文部省)を、すべての地域が下まわっている。近畿(12・7cm)は約3cmの差を示す。

伏臥上体そらしは、基準が60・4cm(文部省の全国平均値)。これを上廻っているのは、中国(63・4cm)だけ、ということになる。

〈敏捷性〉を示す垂直とびと反復横とびでは、筋力同よう中国の優秀さがよく現れている。

垂直とびの全国平均は61cm、反復横とびの全国平均は44・7点(いずれも文部省調べ)。

次に女子について男子同ようのメスを入れたい。

第3表(次頁)、第4表(次頁)はそれらのまとめであり、第3表右欄は測定対象人数。なお、北海道はチームが3回戦へ進出、そのチームの7人に測定に参加してもらった。

〈形態〉について分析を進めてみると図2(21頁)のようになる。原点は文部省調べの身長156・1cmと体重51・5kg。

各地域別に平均値がプロットされ、斜線はローレル指数を表わしている。

この図から、身長が小さく、体重の少ない地域として東海、関東、九州があげられ、大きい地域には東北、身長が小さくて体重が重い地域として北海道を指せる。

これらをローレル指数からみると北海道がいちばん大きく145を越え、逆にいちばん小さいのは近畿、四国といえる。

ローレル指数でいえば130〜140の範囲内に平均値のあることが判る。

各地域の身長の平均値は158〜160cmの範囲内にあり、体重では東北北海道を除くと53〜55kgの範囲内にあることも判る。

全国平均値からいえば、最低の値を示す地域でも身長約1・5cm、体重では約2kgの差を示している。

各項目をみてみたい。〈筋力〉について、まず握力をみると、全国平均値30・2kg(文部省)を下まわるのは近畿だけ、北海道が4・5kgも越してトップ。

背筋力についても、全国平均値84kg(文部省)を、全地域が上廻りいちばん弱い北海道でも約10kgのオーバー、トップの東北は約20kgも上まわっている。

そこで男子と同ように、総合筋力指数(握力プラス背筋力)を作成してみた。さすがに、各地域とも文部省調べによる全国平均値を上回る。面白いのは男女ともトップ地域と平均値の差が12・4kgと全く同数字なことである。

図 1

文部省 身長 168.4cm 体重 58.1kg

◇総合筋力指数　東北135・6　東海132・5、九州132・4、四国132・1、関東131・7、中国131・2、北信越129・7、北海道128、近畿125・9。文部省全国平均値114・2kg

〈柔軟性〉では、まず立位体前
屈。
全国平均値は17・2cm（文部省）であり、関東、東海、近畿、中国四国の5地域が劣る。

伏臥上体そらしは、全国平均値が60・1cm（文部省）、北信越、中国、四国の順で優れ、逆に北海道がもっとも低く、東北、関東がアンダー。

最高と最低の差は約3cmである

〈敏捷性〉では、垂直とび、反復横とびとも、さすがに全国平均値（文部省）の43・3cm、38・5点をいずれも全地域が突破している

特に、北海道の充実は注目してよいと思う。

女子形態・全インターハイ選手地域別平均値と標準偏差値〔第3表〕

地域＼平均偏差＼測定項目		身長	体重	胸囲	指先長	手長 右	手長 左	手幅 右	手幅 左	測定人数
北海道	M	157.7	57.1	84.0	205.0	17.2	13.3	18.9	18.9	7
	S.D	3.2	5.0	3.2	5.3	1.2	1.0	0.8	0.8	
東北	M	759.2	56.3	83.9	201.0	17.0	17.2	18.8	18.7	84
	S.D	4.2	4.8	3.1	6.4	0.8	0.8	0.9	1.0	
北信越	M	159.2	54.6	82.6	200.1	17.0	17.0	18.8	18.7	55
	S.D	4.8	5.2	2.9	7.3	0.9	0.9	1.0	1.0	
近畿	M	159.7	54.1	83.0	199.5	17.2	17.0	18.7	18.5	56
	S.D	4.7	5.2	3.4	7.1	1.0	0.8	1.1	1.0	
中国	M	158.9	54.8	83.3	199.7	16·9	17.0	19.0	19.0	42
	S.D	5.0	4.8	3.7	6.7	0.7	0.7	1.2	1.1	
東海	M	158.3	53.5	81.4	199.1	17.2	17.1	18.9	18.7	82
	S.D	4.3	5.3	3.9	7.2	0.8	0.9	1.1	1.1	
関東	M	158.7	53.6	82.2	199.4	17.1	17.0	18.8	18.7	118
	S.D	4.6	4.9	2.9	7.1	0.9	0.8	1.1	1.1	
四国	M	159.1	53.5	82.4	200.4	17.2	17.3	18.8	18.8	28
	S.D	4.0	4.4	3.2	6.2	0.7	0.9	1.0	1.0	
九州	M	158.6	54.0	82.5	200.3	17.0	17.0	19.2	19.1	109
	S.D	4.6	5.5	3.6	7.1	1.1	1.1	1.1	1.1	

さて、これらの分析結果を総合的にまとめてみたのが次頁の第3図（男子）と第4図（女子）である。これは形態と機能のそれぞれの順位によって相関グラフにしたものである。

男子の図は、さらに昭和43～50年の8年間にベスト16に入ったチーム数とその内容（ベスト16、ベスト8、4位内、2位、1位の数が多い順）により、総合戦績順位を示してある。

このグラフをみると、形態がもっとも秀れている東北が、機能順位5位ということが判り、機能順位でもっとも優っている地域として中国、それに四国がつづく。

8年間の総合戦績順位をみると関東が54チームをベスト16に送りこみ、ベスト8に15チーム、4位内に4チームと群を抜き「1位」、次いで九州（ベスト16に47、ベスト8に11、4位内に4チーム）となっている。

反対に8位の北信越はベスト16に5、ベスト8に2チームが入っているに過ぎなかった。

また、機能が秀れているチームが「強い戦績」をあらわし、左まわりの渦を巻いて、形態の大きい方へと移行、さらに形態の小さい方へ進んでいる。

機能が同順位の場合には、形態の大きい地域が戦績順位の優劣につながっていることもうかがえる

女子のグラフをみると、機能順位で秀れているのは北海道、東北四国、関東、九州とつづき、形態に秀れているのは東北、北信越、北海道の順である。

しかし、8年間の戦績順位は九州（ベスト16に24チーム、ベスト8に14、4位内に6）であり、ついで関東（ベスト16に21、ベスト8に10、4位内に3）である。

北海道はベスト16に2、ベスト8に1、4位内は0であった。

女子機能・全インターハイ選手地域別平均値と標準偏差〔第4表〕

地域＼平均偏差＼測定項目		握力平均	背筋力	反復上体おこし	立位体前屈	伏臥上体そらし	垂直とび	反復横とび	9m三往復走	踏台昇降	測定人数
北海道	M	34.7	93.3	14.1	18.6	59.1	50.9	45.1	14.7	81.5	7
	S.D	3.4	14.1	1.6	5.6	3.3	7.0	2.0	0.5	9.7	
東北	M	33.5	102.1	14.1	18.7	59.5	49.8	41.8	14.9	92.8	84
	S,D	4.6	19.1	1.6	4.2	6.0	5.2	3.3	0.6	12.7	
北信越	M	32.6	97.1	14.0	18.9	61.7	47.3	42.3	15.1	87.1	55
	S.D	4.8	15.7	1.6	4.7	6.6	5.4	2.8	0.6	9.7	
近畿	M	29.9	96.0	14.2	17.0	60.3	47.5	41.9	15.1	14.1	56
	S.D	4.8	18.9	1.1	5.5	7.1	6.1	2.5	0.8	14.1	
中国	M	32.0	99.2	13.7	15.5	61.6	47.2	42.5	15.2	92.6	42
	S.D	4.6	17.0	1.8	4.9	4.9	5.1	3.6	0.5	15.0	
東海	M	22.3	150.2	13.2	16.1	60.2	46.9	42.4	15.3	94.8	81
	S.D	4.0	2.06	1.5	4.7	6.0	5.9	4.0	0.6	11.7	
関東	M	32.6	99.1	14.0	16.7	59.7	47.9	42.3	15.1	88.1	118
	S.D	4.3	17.6	1.9	4.7	6.1	5.3	3.7	0.5	9.2	
四国	M	30.8	101.3	13.7	16.5	61.5	47.1	43.5	15.1	97.9	28
	S.D	4.9	21.7	1.9	6.3	6.0	5.1	2..	0.5	12.8	
九州	M	32.6	99.8	13.5	17.5	60.6	47.8	42.0	15.1	88.9	109
	S.D	4.2	16.0	1.7	4.4	5.5	4.9	3.4	0.6	10.0	

ここで気付くのは、形態に小さい順位で、機能順位が中間にいるチームが強く、男子と同ように左渦を巻きながら、形態の大きい地域へと矢印が進んでいるのが感じられる。

ただ、北海道は形態・機能とも に秀れている順位でありながら、戦績的にふるわない（8位）のは淋しく感じられる。

〔まとめ〕以上の分析結果から、現在のインターハイハンドボールは、形態に比べて、機能面に秀れることが競技力の向上につながっている、といえよう。

しかし、これは北信越の男女に見られるように気候的に恵れない地域の運動量が、機能面の能力を充分トレーニングされないままに出場している結果かもしれない。

その意味においてローレル指数の大きい東北の男女が、気候に恵れた生活環境でトレーニングを続けてきたならば、ベスト16以上のベスト8、4位内への進出順位はもっと変ったものになるかも知れない。

今回の発表にあたり、次の各位のご協力をいただいたことを感謝いたします。

石井喜八（日体大教授）、馬場太郎、中出盛雄、相浦義郎山崎武、津熊美智子、河南政信、望月伸三郎（以上近畿ハンドボール協会）

（注）インター・ハイ（全日本高校選手権）出場選手の体力の実態は定期的なリポートとして、読者の好評を得ておりますが、これまで4回の掲載誌ナンバーは次のとおりです

①「インター・ハイ出場チーム体力測定報告」（近畿ハンドボール研究会）＝45年9月・79号

②「インター・ハイハンドボール選手の体力の実態」（望月伸三郎）＝47年12月・104号

③「昭和47年度インター・ハイハンドボール選手の体力の実態」（全国高体連ハンドボール部）＝48年8月・111号

④「高校ハンドボール優秀選手の分析」（全国高体連ハンドボール部）＝49年8月・122号

おことわり　誌面の都合で一部の数字の図表化を割愛させていただきました。（編集委）

第3図　〔男子〕形態順位

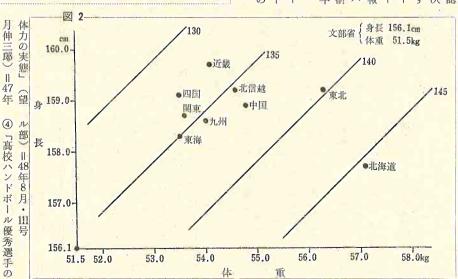
東北　近畿　四国　中国　北信越　東海　関東　九州

機能順位

第4図　〔女子〕形態順位

東北　北信越　北海道　中国　近畿　九州　四国　関東　東海

機能順位

図 2

仁川市庁（韓国女子）1勝3敗

～日韓女子社会人交流～

第5回日韓女子社会人交流は，韓国実業団のトップに立つ仁川市庁を招いて，3月19日から3日間，名古屋市体育館で行われた。

日本側は，全国選抜大会（別掲）に出場中の実業団4チームが対戦，3勝1敗だった．

▽第1戦（3月19日）

大崎電気 14（7－2、7－6）8 仁川市庁（韓国）

【大崎】	得		得	【仁川】
西村	0	GK	0	崔聖姫
中島	0	GK	0	李太姫
中村	1	FP	0	趙泰順
席定	1	FP	0	金敬愛
長谷川	1	FP	0	任順金
内野	0	FP	1	黄分徳
大場	4	FP	0	朴妙順
深堀	3	FP	1	趙喜順
西	4	FP	0	権必欽
工藤	0	FP	2	朴玉景
吉田	0	FP	4	李南子
陽田	0	FP		
14	(1)	PT	(0)	8

▽第2戦（3月20日）

仁川市庁 12（7－7、5－3）10 日立栃木

【日立】	得		得	【仁川】
粂谷	0	GK	0	崔
高橋	0	GK	0	李(太)
荒木	0	FP	0	趙(泰)
晴山	2	FP	2	趙(喜)
小山	0	FP	0	任
大岩	1	FP	1	金
桜庭	1	FP	1	黄
田村	5	FP	0	朴(玉)
小根沢	0	FP	5	朴(妙)
大金	0	FP	2	李(南)
藤田	1	FP	1	権
吉田	0	FP		
10	(1)	PT	(1)	12

（審・長谷川、細井）

▽第3戦（3月21日①）

ジャスコ 8（3－6、5－1）7 仁川市庁

【ジャ】	得		得	【仁川】
久保	0	GK	0	李(太)
山本	0	GK	0	崔
平田	1	FP	2	朴(妙)
松下	5	FP	3	李(南)
林	1	FP	0	趙(泰)
金田	0	FP	1	趙(喜)
鈴木	0	FP	0	金
河田	1	FP	0	黄
笠	0	FP	0	任
若田	0	FP	1	権
		FP	0	朴(玉)
8	(2)	PT	(0)	7

（審・西川、湯山）

▽第4戦＝最終戦（3月21日③）

ブラザー工業 12（5－6、7－5）11 仁川市庁

【ブ工】	得		得	【仁川】
山本	0	GK	0	李(太)
浅谷	0	GK	0	崔
楠石	0	FP	2	朴(妙)
山中	2	FP	4	趙(喜)
小森	1	FP	3	李(南)
宮平	3	FP	1	金
国府田	3	FP	0	黄
佐々木	2	FP	0	趙(泰)
中川	1	FP	1	権
岩井	5	FP	0	朴(玉)
宮本	0	FP	0	任
木下	0	FP		
12	(3)	PT	(0)	11

（審・湯山、稲石）

□……初来日の仁川市庁（市役所）は、昨春の世界女子アジア予選に出場したGK李太姫（162㎝）、FP朴妙順（167㎝）を攻守の要にもつ韓国社会人のチャンピオンチーム

昨年の韓国高校1位・聖貞女から李南子、朴玉景のコンビを新加入させ、「できれば全勝したい」（孟正述コーチ）という意気ごみだった。

□……しかし、遠征の緊張と、日本チームの戦法になれぬため、緒戦・対大崎電気は、再三の好機を最後の詰めが甘く逃し、後半なかば4－12と開かれたあと、李（南）の鋭いシュートで、わずかに盛り返しただけで敗れた。

日立戦もいきなり速攻を許して0－4、12分には1－6と苦しかったのだが、日立の攻め口が判るにつれ、ディフェンスが固まり、攻撃も好テンポとなって22分同点後半は朴（妙）が評判どおりの好技をみせて10－8分と逆に優位に立った。

日立はいったん1点差に追いあげたが、仁川は23分朴（妙）がダメ押し点、勝利を握った。

土たん場でハプニング

□……ジャスコ戦は乱戦の幕切れにふさわしく、土たん場でハプニングがおきた。

8－7とジャスコがリード、残り7秒で仁川はPTを得たのだがシューターがセットポジションをとったあとフロアの滑りを気にして、ボールを下に置こうとするなどのゼスチャアをみせた。

この間に、正規の試合時間は切れてしまい、レフェリーの吹笛後もなかなかシュートを射ちこまないため、PTではめずらしい「オーバー・タイム」（競技規則5の2）と判定され、試合終了。

おさまらないのは仁川側で一人の選手がフロアに座りこんでしまったほか、役員団が「試合時間をこえても、PTは投げさせてみなければならない」（競技規則4の7）として強硬な抗議をつづけた。

結局、レフェリーの判定どおりでおさまったが、チャンピオン・ジャスコにはどうしても引き分けたいとする執念をのぞかせた場面だった。ジャスコはこれでチーム結成後、公式戦6試合土つかず。

ブラザー、1分前に決勝点

□……このエキサイトが尾をひいて、最終戦の対ブラザーは激しい展開になった。

ブラザーの先制を、前半なかばでくつがえした仁川は、後半も1分趙（喜）、4分李（南）で加点、8－5とリードを奪った。

ブラザーは6－9のあと二本のPTを宮平が決めて、反撃の足場を固め、14分山中で同点、16分PT（宮平）で逆転した。

さらにそのあと18分国府田のゴールで11－9としたのが、結果的には利いた。

仁川も粘り、20分李（南）、23分権で11－11と振り出しへ戻したのだが、ブラザーは余裕を残しており、24分国府田が、決勝点を奪って逃げ切った。

□……仁川市庁は、1勝3敗に終ったものの、その試合ぶりは尻あがりとなり、最終日（21日）の連戦は、日本のAクラスに伍するものだった。

特に、フェイント技術の巧さが目立ち、これまでのテクニカルなカラーをいっそう強めた。

最近の韓国女子は、日本の速さも採りいれ消化している、と伝えられていたが、今回は、さしてみるべきものがなく、日本勢の帰陣につかまっていた。

個人では、前評判の高かった朴妙順が馴れるにしたがい本領の鋭さを発揮、また、17才の新星・李南子（174㎝）のステップシュートは光るものがあった。

しかし、白花醸造（ソウル）が廃部後、韓国にはこれといった社会人チームが育っていないため、仁川市庁も、競争相手に恵れず、チーム力を貯える機会は乏しいらしい。

韓国側が〝日韓交流〟に執着する理由は、この辺にある。

5回の通算成績は、日本側の22戦15勝1分6敗。

（横地宇吉・全日本実連副理事長）

ジャスコ、早くも〃全国〃優勝

新シーズンの訪れを告げる全日本実連・第4回NBN（名古屋テレビ）杯全国選抜女子大会は、3月19、20、21日の3日間、名古屋市体育館に4チームが集まり、リーグ戦で行われた。

3連勝を狙う日本ビクター（茨城）の欠場から混戦を予想されたが、旧田村紡勢によるジャスコ（三重）が快勝、新チーム結成後、2ケ月足らずで早くも〃全国〃優勝を飾った

ジャスコ（三重） 7（4—1、3—5）6 ブラザー工業（愛知）
ブラザー工業 12（3—5、9—5）10 日立栃木（栃木）
ジャスコ 7（4—2、3—1）3 大崎電気（埼玉）
ブラザー工業 10（5—1、5—1）2 大崎電気
ジャスコ 11（4—6、7—3）9 日立栃木
大崎電気 11（6—3、5—0）3 日立栃木

【順位】①ジャスコ3戦全勝②ブラザー工業2勝1敗③大崎電気1勝2敗④日立栃木3敗

○……いきなりぶつかったジャスコ×ブラザー戦が、結果的には〃決勝〃。

新チームとは云え、オリンピック候補3人をもち、場なれしたジャスコが、TV放映によるショートニング・マッチ(20分ハーフ)のペースを巧みにのみこんで、10分すぎ一気にスパート。松下、河田がたたみかけ4—1、後半10分には7—3と開いた。

ブラザーは後半14分PTを決めてからリズムに乗り楠石、宮平で追いこんだが、6—7としたところで時間が切れた。

○……このあとジャスコは、大崎戦、日立戦を手固くとり優勝を決めたものの、歯切れは必しもよいものではなく、特に日立戦は後半2分4—7と主導権を奪われ、苦しかった。

今のところ、三毛(田村紡)の欠けた穴は響いていないようだが、いつまでも「新生の意気」だけで乗り切るわけにはいくまい。

壁にぶつかった時、どう突破するか。ジャスコの評価は、シーズンが深まってから、としたい。

○……このほかの3チームは、それぞれ一長一短をのぞかせ、特にブラザーは、相変らずコートサイドの評判は「強いのか弱いのか判らない」だ。

学生界から初めて迎えた岩井（武庫川女大出）がリードマンの役をこなせば、小森をはじめとする攻撃陣が活き、期待できる。

大崎は切れ味がもどり、最優秀新人に選ばれた西（佐世保商高出）など、楽しみな材料が多い。

日立も昨年の低調は吹っきれており、チーム全体の動きがよくなっている。あとは、どこかで「勝つ味」をつかむことだろう。

最優秀選手は松下（FP、ジャスコ）が初受賞。

《チーム別個人得点》▽ジャスコ 松下9、河田8、鈴木6、金田2
▽ブラザー工業 佐々木7、宮平6、中川5、山中3、楠石、小森、国府田各2、宮本1
▽大崎電気 席定5、大場4、深堀3、長谷川2、中村、内野各1
▽日立栃木 晴山6、小根沢4、小山、大岩各3、桜庭、田村、藤田各2

〈注〉ジャスコは、今春1月解散した田村紡(三重)の主力10人が移籍して結成された新チームで『日本ハンドボール協会登録規定・第6条(新設チーム)』では「新設チームとは前年度登録されていないチームで、かつ本年度に於ける登録のメンバーはすでに他のチームに登録されている者が、3名以内であることを条件とする」の後段に低触するが、日本協会は、選手の前所属チームが活動を停止したことと、年度内にチャンピオンシップの予定がない、などの理由でその登録を2月15日付で受けつけていた。

リーグ組（日新呉・三菱レ）強し
男子実業団入替戦

全日本実連は、3月7日名古屋・ブラザー工業体育館で、男子日本実業団リーグの入れ替え戦として、リーグ7位・日新製鋼呉（広島）、同8位・三菱レイヨン大竹（広島）、全国実業団トーナメント1位・トヨタ車体（愛知）、同2位・神戸製鋼（兵庫）の4チームによるリーグ戦を行った。

リーグ組はさすがに力強い攻守で、昇格を狙う両チームを突き放し、残留を決めた。

日新製鋼呉（広島） 21（7—5、14—5）10 神戸製鋼
三菱レ大竹（広島） 22（10—5、12—8）13 トヨタ車体
三菱レ大竹 22（10—5、12—4）9 神戸製鋼
日新製鋼呉 22（9—9、13—7）16 トヨタ車体
日新製鋼呉 13—10 三菱レ大竹
（この試合は50年6月7日日本実業団リーグの記録を適用）
トヨタ車体 9—7 神戸製鋼
（この試合は51年11月2日全国実業団トーナメントの記録を適用）

【順位】①日新製鋼呉3戦全勝②三菱レ大竹2勝1敗③トヨタ車体1勝2敗④神戸製鋼3敗

5月に日本実業団リーグ
予選・決勝制を採用

全日本実連は、日本リーグ発足にともなう全日本実業団選手権（日本実業団リーグ）の運営について検討したが、このほど、その大要をまとめた。

それによると、昨年までの各地転戦をやめ、男女とも8強を2組に分けた予選リーグを、男子は東京体育館、女子は愛知県体育館で5月8、9の両日行い、5月12、13、14日の3日間、会場を大阪市中央体育館に移して、男女の決勝（1〜4位）リーグと5〜8位決定リーグを行う。

女子は、昨年度参加チームのうち、優勝した田村紡(三重)が解散1チーム欠員ができたため、4月中旬、ジャスコ(三重)などの加盟希望チームによるセレクション・マッチで補充する。

なお、日本協会は、5月8、9日に男女のオリンピック選手選考試合を計画しており、日程の調整が問題化しそうである。

17、18日には実業団定期戦

大同製鋼(愛知)、湧永薬品（大阪）、三景（東京）、大崎電気（埼玉）の実業団男子4社による恒例の親善大会（定期戦）が、4月17、18日東京・駒沢屋内球技場で行われる。試合法式はトーナメントで17日15時30分から湧永×大同、18日10時から三景×大崎、同日午後から3位決定戦と決勝の予定である。

▽本誌恒例

昭和50年度重大ニュース

本誌恒例△

①モントリオールオリンピックアジア予選出場(男子)と、日本人審判員初の〝国際進出〟(51年3月)

モントリオールオリンピックを124日後に控えた3月15日から台湾でアジア予選第1次ラウンドが開幕。日本は、オリンピック連続出場を目指して、実力をいかんなく発揮、ライバル・韓国、台湾を連破して、51年4月の決勝ラウンド(対イスラエル)へ順当に駒を進めている。

この予選で、IHF(国際ハンドボール連盟)は、初めて日本人審判員を指名。安藤純光、佐野和夫両国際審判員が台湾×韓国2回戦をジャッヂ、好評を得た。

なお、アジア予選開幕までには4月以来、開催国、試合法式などをめぐって、糸のもつれがつづき第1次ラウンド3週前になってクウェートが出場をとりやめるなどした。

②世界女子選手権参加と第2回東ドイツ交流(11、12月)

昨春、密室試合(=本誌129号)までして手に入れたアジア代表権

上位4ケ国にはモントリオール出場権が与えられるとあってすばらしい斗志での乗りこみだったがオリンピックへ最後の機会となるヨーロッパ勢の意気ごみもすさまじいものがあり、予選リーグの壁を突き破れず、結局、前回(48年)同より10位に終った。

優勝は東ドイツ。日本はオリンピック参加を、51年6月の「3大陸代表決定戦」にかける。

この大会に先立って、第2回東ドイツ交流として同国へ遠征、7戦3勝4敗だった。

③プレ・オリンピックへ全日本男子出場、4位(10月)

モントリオール・オリンピックを1年後に控えて、カナダ協会が大会運営のリハーサルと、強化を兼ねて開いたもので日本のほかソ連、ポーランド、デンマーク、アメリカ、カナダが出場、日本は2勝3敗で4位となった。日本チームがアメリカ大陸で試合するのは初。なお、本田洋選手(大阪イーグルス)がGKとして初の公式国際試合出場50回をマーク。

④大同製鋼(愛知)3年連続の3大タイトル独占

48年7月の全日本実業団選手権で優勝を飾って以来、あらゆる全国タイトルを独占しつづける大同製鋼の快進撃は、今シーズンもとどまるところを知らず、6月の日本実業団リーグ、10月の三重国体12月の全日本総合で優勝、ついに3年連続3冠王という大偉業を成し遂げた。

5人のオリンピック候補選手を主柱に攻守のバランスはもとより、結束力も抜きんでたものがあるあくまで社業優先の姿勢もすがすがしい

⑤モルテン、国産初のIHF公認球に。(6月)

かねてから、IHFに対し、国際公認を働きかけていたモルテンゴム工業(本社・広島市)の製品が、IHFの合成皮革認可の新施策も手伝って〝宿願〟をはたした。

6月の男子用につづき、7月には女子も公認された。

(写真)プレオリンピック、日本×ポーランド戦

⑥空前の財政危機招く(4月)

49年度収支は、世界女子選手権アジア予選開催などあって大幅な支出増となり、これまでの蓄積をはき出しても埋め切れず、291万円の実質赤字となる最悪事態を招いた。

このため、50年度予算は、その補てんと、物価高のはさみ打ちをうけ、7月31日、全国代議員会を緊急招集、各都道府県協会一律10万円の組織協力金上のせと、役員協力金を3年ぶりに復活して、急場をしのぐこととした。

上づみの組織協力金10万円は、50、51年度にまたがって納入してよいとされている。

⑦小松市立女高(石川)、高校女子で2度目の2冠(全日本高校国体少年女子の部)獲得(8 10月)

全日本高校、国体(49年度までは高校の部)を2度以上制した例は、男子では桜台(愛知)の7回という快記録があるが、女子では小松市立女高が初めての偉業。

全日本高校では、秀れたディフェンス力で勝ち抜き、国体では、追われる立ち場をみごとな精神力ではねのけた。

最初の二冠独占は48年度だった

⑧日本協会理事長に荒川清美氏5選(4月)

3月29日に開かれた全国理事会で満場の支持を得て5選。42年就任以来、地道に国内体制造りをすすめる一方、数々の国際事業をこなした手腕が評価されたものだが

物価の高とうと事業の拡大から財政面はつねに危機ぶくみ。

特に今期（50～51年度）は、5選中、最大の難局とみられ、4選の田村正衛会長と相まって、財源確保をどう解決するか注目されている。

⑨バロンマノ・グラノリエルス（スペイン）来日（4月）

恒例の新シーズン開幕国際試合として、史上初めてスペインチームが来日、全国で5試合が行われ日本側は、大同製鋼（愛知）が1勝したにとどまった。

グラノリエルスは、これまで来日したヨーロッパチームとは異なり、技巧的で、サガリバイ、アペラドール、ゴメス、GKパゴアガらの攻守は、味（あじ）のあるものだった。

⑩女子の名門・田村紡（三重）が解散（12月）

昭和37年創部以来、女子界の最上位に君臨していた田村紡は、繊維・紡織業界の不況が一因となって、12月の全日本総合選手権を最後に活動の休止を発表、翌1月チームを解散した。

42年度に国内4大タイトル独占を遂げたほか全国優勝17回という強豪で華麗なパスプレーを身上としていた。

その他

▽円光ク（韓国社会人男子）来日など日韓交流つづく。高校交流も再開。▽全日本実業団選手権、女子もサーキット化へ（6月）▽中大、宿願の全日本学生選手権優勝（11月）▽国体年令別を採用（10月）▽アジアハンドボール連盟が正式発足へ（51年1月）▽史上初の女子オリンピック候補選手発表（同2月）

日本ハンドボール史資料提供のお願い

本誌138号（51年2月号）で、ご協力をお願いした「日本ハンドボール史編さん資料提供＜第1回分＞」は、多くの反響を呼び、すでにいくつかの資料が寄せられておりますが、重ねて＜第1回分＞の項目を掲げ、読者の情報をお待ちします。なお、＜第2回分＞は、次号で発表の予定です。

①大正11年、日本体育学会夏季講習会の資料

②大正11年以降、昭和11年までの資料（試合記録、講習会記録など）

③昭和3年、国際アマチュアハンドボール連盟加盟に関する文献

④「送球」と命名したいきさつ

⑤大正11年、ハンドボール伝来の定説に代る新考証

※資料・情報の提供は日本ハンドボール協会（03－467－七〇九七）まで。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

ミスター・ルールブック
エミール・ホルレ氏を偲ぶ

安藤純光
(日本協会審判部長)

IHF(国際ハンドボール連盟)の「審判と規則委員会」のプレジデントとして、永く在任し、(というより君臨したといったほうが適切な……)自他ともにハンドボール・プロフェッサーの名を許していた“ミスター・ルールブック”エミール・ホルレ氏(スイス)が、2月末、ガンのため、突然、死去されたことを知り愕然とした

ホルレ氏は、3月15日から台湾で行われるモントリオール・オリンピック・アジア予選に、再びIHF立ち会い人として参加することになっていた。

私は、氏にまた逢うことができ氏の前で、再び笛を吹くことに大きな意義を感じていただけに、大変なショックを受けた。

親日家であったホルレ氏。ハンドボールを、ヨーロッパのスポーツから世界のスポーツにしようと努力しつづけたホルレ氏。

日本ハンドボール界にとっても忘れることのできない同氏の死去に、いささかの感想を述べて、哀悼の意を表したい。

私は、氏と前後3回にわたって顔を合わせる機会をもった。

最初の出合いは、ミュンヘン・オリンピックアジア予選(46年11月日、日本)の第1戦・イスラエル対日本の競技開始30分前、東京体育館の、すでに設営ずみの競技場のゴール付近であった。

当時、日本協会常務理事の藤木強氏が、私をホルレ氏に紹介してくれた。

ゴールの位置をめぐってホルレ氏(右から3人目，白髪)は自分の主張を曲げなかった
(昭和46年11月14日　東京体育館)

これ以前に、質問状を2、3回氏あてに送っていたので、Andoの名は覚えていてくれたようであった。

その直後、競技場を視察した氏はゴールの置き方が間違っているといいだした。氏はゴールの前面がゴールラインの内側と一致するように置かなければならないと主張したのである。私は、それは間違いであり、ゴールのうしろがゴールラインの外側と一致していなければならない、したがってこれが正しい配置であると主張した。しかし、氏はがんとして聞き入れなかった。競技開始の時間も迫っていたので、やむなくゴールを置きかえラインをひきなおして第1戦が行なわれた。担当審判として来日のカールソンとオールソンはこれを終始見ていたが、そこでは口出しをしなかったそして氏のいない別な場所で「お前が正しい」とささやいた「エミールには私たちから話をしておくから」ともいった。その後名古屋、大阪、東京と競技が行なわれたが、このことは問題とならなかったし、氏の口からも出なかった。このとき私は自分の非を非として認めず自分の主張を通す聞きしにまさる実に頑固なおやじだなと思った。ミスター・ルールブックでもあった氏の一面である。氏の人柄と存在を理解していなかった当時の私にはとても納得できることではなかった

2回目に顔を合わすことになったのは、一九七三年にブルガリアのブルガスで開催された国際審判員の研修会であった。この研修会に参加して、前回に感じていた私の氏への印象はますます強烈なものとなった。研修会はすべてミスター・ハンドボールの彼によって運営されていた。参加者もまたそれが当然のように行動していたのである。まさしくIHFのボスであることを見せつけられた。しかし折にふれては、「遠いのによく日本から参加してくれた」と声をかけてくれたことが思い出される

そして3回目は、昨一九七五年オランダのシッタルドで開催された国際審判員研修会であった。私たちがシッタルドのリンブルグスポーツセンターに着いて、オランダ協会の役員に案内されて附属の、レストランへ行ったとき、ホルレ氏をはじめJ・グリンベルガス、J・P・ラコー、C・ワングら委員会のメンバーが食事のあとのお茶を飲んでいるところであった。私たちを見た氏は、椅子を立って手をさしのべ、同席の各氏にも紹介してくれた。外国に行って旧知の人がいることは非常に心強いものであるが、その中の一人が、それが今回の研修会のボスであるということは、私たちにとって大きな力であった。その彼が心からの歓迎を示してくれたこともまた大変うれしいことであった。

研修会の相間に散歩をしていた私たちを見つけた氏は、歩みよって手をひろげ「ほんとうによく来た、私にとってはファンタジックだ」と日本からの参加をよろこんでくれていた。このとき氏はスイスからドライブをして来ていた。私が氏の年令を考え合わせておどろくと「いや私はうしろの席でねむっていればいいのだ」といって笑っていた。スイスから参加したレフェリーが氏の運転手をつとめるわけである。

日本のレフェリーをなんとかして世界の舞台に送りたいと考えて努力をしてくれたホルレ氏にもようやく日本のレフェリーが理解される段階になった時、氏の永眠は全く残念に思われる。

しかし、今は氏の安らかな冥福を祈るばかりである。

新しい発展に「企業感覚」を

ハンドボールがTVを通じ茶の間に流れ、大企業が積極的にこのスポーツへ乗り出してくる――これは一ハンドボールマンの描く夢かも知れないが、現実のテーマとして実現を考えなければならぬことではなかろうか。
日本ハンドボール界の新しい発展に不可欠な要素だからだ…。

小西博喜
（京都協会理事長ー投稿）

話はすでに古くなるが、新春の新聞スポーツ欄は、ラグビー、サッカーが全面をおおう〝盛況さ〟であった。

シーズン制の特徴といってしまえば、それまでだが、正月の茶の間とタイアップした賑いは、ラグビーを知らぬ人でも、新聞とテレビで、いやが応にも見なれさせられてしまう。普及対策として、これ以上の効果はあるまい。

とりわけラグビーが、シーズンスポーツとしての特色を活かしている〝演出力〟は抜群だ。

関西で全国社会人と全国高校をかみ合せ、関東では全日本学生、東海では全国大学地区選抜、全国高専と、巧みにその総ての組織と機動力を動かして、全国にラグビー絵巻を展開させている。

裏方の実力といおうか、実業界に地盤をもつ組織力の広さ、強さといおうか―。

サッカーも、元旦の天皇杯（全日本選手権）決勝を頂点に仕立て、実に巧い盛りあげかただ。

出場チームは各母体でのランクにしたがい、日本リーグ勢と学生勢の間で組み合わされる。抽せんによる運・不運といったものはなく、中盤までに「事実上の決勝」といったケースもみられない。

日本リーグと学生の実力比較や検討もできるし、それが興味をいっそう募らせる。そして、これらの競技団体（本部協会）が、自らのスポーツ発展に、ためらうことなく、企業的運営感覚を採り入れていることに注目させられるのである。

光る他競技の「演出力」

これらの競技界は、日本一の王座を決定する大会を、普及対策としてもマスコミの力をかりて、最大の効果をあげることに頭をひねっている。

本部、地方を問わず各協会はテレビ会社にコネを求め、各種企業に働きかけてスポンサー（番組提供者）を見つけ、CM活動と巧妙にタイアップする。

それが、各種大会を全国ネットワークへ乗せることにつながる。

きょうの試合で日本一が決まるというキャッチフレーズにからませて、どちらが強いか、どんな選手がいるか、そして、その競技の魅力を存分に映し出す…。

プログラム（時間）が進んでいくうちに、茶の間の人たちは、いつか、そのスポーツのファンとなり、子供たちの憧れの的に育つ。

当然、これらの競技界は、マスコミを満足させるスタープレイヤーをかかえている。スターの不在は、そのスポーツへのかっこうの「案内役」である。

みかたをかえれば、マスコミとその競技界と企業系チームの〝合作〟によるスーパースター誕生だ。

いまや、スポーツ選手は、いささか極論すれば、プロ、アマを問わず、企業にとって、充分引き合いのたつ看板であり、それが、その競技をテレビ、新聞に〝君臨〟させる要因ともなる。

競技団体側の演出のチエ（例えば、前述のような大会の盛りあげ）企業のメリット計算、マスコミのいわゆる〝協力〟。

この三つは、現代のアマチュアスポーツの前進に、最も必要な〝要素〟であると、いえないだろうか。

企れ、テレビへの進出

これらのことをハンドボール界にあてはめて考えてみよう。日本協会そのものに〝企業〟的体質が乏しいことはさておき、斯界を代表するスターは誰か、ファンに魅力を感じさせるチームはどこか。

わずかに、木野実、野田清、そして過去に大崎電気、芝浦工大のイメージが素人筋の口にのぼった程度だ。

テレビの放映回数が少ないためハンドボールそのものの印象さえ極めてうすい。

ましてや、個々の選手や、特定のチームは……である。

この情報化時代に即して、やはりテレビによるゲーム紹介の機会をもっと多くもち、本数を年間契約できるように企画し、実業団の上層部と、運営の協力提携も考えなければなるまい。

そうした〝事業〟のできる人を探し、また、人が人をつくる輪の拡大など、スケールの大きなプランニングも、欠かせないことだ。

少なくとも、1年に10本ぐらいの全国ネットによる「ハンドボール放送」の獲得。それが、ハンドボールを魅力あるスポーツとして一般の中へ溶けこませる最大の手段だと思う。

担当部門設け検討を

もちろん、いかに外的な条件が揃っていても、中身が乏しくてはテレビに映し出されることはない。商品価値のあるビッグカードを企画しなければならぬ。

企業側からすれば、商品的価値の高いスポーツには、〝マスコミ時代〟の資本投資の宣伝費も莫大なものがある。

日本協会内に、テレビ放送による「短期決戦的普及対策」の担当部門を設け、企画・渉外に乗り出すことを考えてはどうか。

発足の決まった日本リーグも、ただ試合をつらねていくだけではなく、例えば、外人選手（ヨーロッパの一流プレイヤー）を補強するチームが出てこないものか。

これは、単なる人気作戦だけではなく、そのチームの魅力、新鮮味にもなろうし、選手育成面でも活気をおびることは必至だ。

外人選手の登用は、ハンドボールが国際的スポーツ、世界的スポーツであることの認識を高めるのにも役立ち、企業筋の〝評価〟を得る手がかりともなる。

〝外人〟は選手ばかりとは限らない。

サッカー界のクラマー氏招へいが、今日のサッカー界を生む大きなきっかけとなったことは、もはや説明を要すまい。

ハンドボール界も、外国から高名なコーチ、指導者を招き全国遊説し、一貫性のある指導体系を作成、基本技の重要性を説くと同時に、ハンドボールの魅力を、少年層を主に、各層に説いて欲しい。

クラマー氏とサッカー界はそれをやってのけた。

それが、底辺の育成にも、頂点の思想構築にも大きく貢献した。

望めぬか大企業の〝着目〟

外人選手や、外国コーチを招くにも、やはり、企業筋のバックアップが、どうしても必要である。

ハンドボール界自体の企画が先か、それとも企業筋の後援が先かは、難しい。

しかし、少なくとも、これまでの日本ハンドボール界の歩んできた道を考えると、大企業のもつ経済力、政治力などあらゆる角度の支援を借りて、〝大物〟の登場を企り、組織の企業化拡大に大英断を下し、小規模集団的構成から、拡大家族に移行していく必要を優先させるべきではないかと思うのである。

日本協会財政基盤—資金づくりが、登録人口による登録金だけのテクニックだけでは限度があり、世界を狭しと歩き、強化研修を積むには、悲観的観測しかできないということを、私は何度となく聞かされている。

ハンドボールが大企業に〝社技〟として採用され、その会社の他のスポーツに優る活動実績をあげていくこと——例えば、現在、華々しくサッカー、バレーボール、ラグビー、バスケットボールなどに力を注いでいる大企業のなかでハンドボールチームをもっているところはいくつあるだろう——を働きかけてみてはどうか。

さらに、それ以外の大企業に啓発する糸口はないものかどうか。

このようなことが成れば、日本協会の永遠の課題である〝財源確保〟にも曙光を見出すことができよう。

「日本リーグ」への期待

日本協会が日本リーグの発足を決めたのは、前に述べた〝外人問題〟のほか、いくつかの新しい発展につながるものと期待される。

バレーボールやバスケットボール女子が、オリンピックで大成果をあげるのは、日本リーグが一つの支えになっていると思う。

これらの競技は、日本リーグを全国各地に披露しながら、層の厚いファンを獲得している。

それが、テレビ中継の視聴率アップにつながり、いっそうテレビ局をあおり、企業を色めきたたせる。

ハンドボールの日本リーグが、どれだけテレビ界に〝商品〟として注目されるかは、今後の動きに待たなければならないが、少なくとも、テレビによってハンドボールファンを造り出す手だてとしては好素材であろう。

この大事な素朴を、いかに肉づけしていくかは、参加チームの〝努力〟であり、運営者の〝演出〟である。

幸いにテレビ界の目に止まったのなら、テレビ解説者としてユニークな人材の発掘が望まれる。

有能なタレントを送り出すことも、今や、競技界の一つの〝任務〟ではなかろうか。

面白く、わかり易い解説をつづけ、大衆性に富んだ内容を電波にのせることが、今後のハンドボール解説者には不可欠である。

〝テレビスポーツ〟として上位にランクされる各スポーツには、その競技界が生んだみごとなテレビ解説者がいる。

ある人は、スマートでハイセンスであり、ある人はゲームの流れに合わせた面白さであり、ある人は魅力的な声音（こわね）であり口調である。その人たちの知名度が、そのスポーツの知名度をあげることに重なりあうのだ。

プロ・ハンドボールへの夢も

大企業が熱を入れ、テレビを主体としたマスコミが力を入れ、ファンの支持が高まれば、日本協会自体の企画も、どんどんレベルアップされていくだろう。

日本に、ヨーロッパの有力国同士の試合を持ってくることも、例えば、トライアングル法式（3ケ国対抗）などの手法でこなせる。

外国チームの壮烈な試合がファン魅了すれば、おのずとヨーロッパのビッグゲームのフィルムやヴィデオテープが、茶の間の要望に応えて登場しようし、そこで覚えられたスターたちの消息を伝える専門誌の刊行へつながる。

ファンの目が肥え、日本国内の水準向上にもなろう。

さらに夢物語をつづるならば、その競技の真髄を伝えるために「プロ・ハンドボール」の誕生も可能である。

金のとれる神技——黄金の腕、黄金の脚、トリッキーな妙技、ウルトラC的テクニック。

プロ—アマ交流は、新しいハンドボールのドラマ開幕である。

国内事業にも点検の目を

理想論を書きつづってきたが、日本ハンドボール界の発展には、これらを夢に終らせ、夢だと片付けてしまってはいけないだろう。

手近かなところへ目を注ぐなら国内事業も総点検が必要である。

例えば、全日本学生選手権にしても、これまでの〝普及選手権〟法式から、〝実力優先〟への移行が望まれる。

そして、このことは、今や全ハンドボール事業に当てはまるのではあるまいか。

実力を全面へ押し出す——それは、スター主義の導入であり、大企業によるハンドボール活動の誕生につながる。

旧習打破で新路線を

オリンピック種目として定着し国際的な拡がりも目ざましいものがあるハンドボール!!。

今こそ「中小企業スポーツ」の印象から脱皮すべき時である。

そのためには、日本ハンドボール界は、すべてに旧習を拾って新しき道を求め、新しき時代の幕あけを自らの手で行う必要があろう

その一つとして、大企業の重要ポストの人材に協会運営の責任ある地位をもっていける体制をつくれば、無責任に放置することはできないし、本腰が入れば、一気に解決することがある。

ただし、モルモット的な存在では生涯スポーツとして全力投球体制に入ることは難しい。

そうした面での努力が、これまで不足していた感じがするのだがともあれ、日本ハンドボール界に企業性の風が吹き、現代企業の長所吸収の努力につくすことは急務と考える。 （了）

各地の記録

ジャスコ、デビュー飾る
男子は大同製鋼3連勝

NHK杯をかけた第15回東海室内選手権は、2月22日岐阜県民体育館に、東海4県の代表が集まり男女ともトーナメントで行われた。

男子は3年連続して大同製鋼（愛知）×本田技研鈴鹿（三重）の決勝となり、大同が前半5本のPTを活かしてリードを奪い、後半20分、本田技・田上の巧技に12－11と詰め寄られたが、そのあと藤中（全日本）の連続得点で突き放し、2年連続5度目の優勝を飾った。

女子は、解散した田村紡の主力が移って新結成されたジャスコ（三重）の初登場に注目が集った。

静岡城北クとの1回戦は、さすがに固さがのぞいたが、後半からみごとなまとまりをみせ、ブラザー工業（愛知）との決勝では、後半11分10－11の劣勢を一気に逆転デビューを飾った。

▽男子1回戦（＝準決勝）

大同製鋼（愛知） 30（15－4, 15－10）14 岐阜イーグルス

本田技研鈴鹿（三重） 28（13－5, 15－7）12 静岡県教員団

▽同決勝

大同製鋼 14（8－6, 6－6）12 本田技研鈴鹿

▽女子1回戦（＝準決勝）

ジャスコ（三重） 11（5－3, 6－2）5 静岡城北ク

ブラザー工業（愛知） 21（11－0, 10－2）2 岐阜女子教員

▽同決勝

ジャスコ 15（8－8, 7－3）11 ブラザー工業

【ブ工】	得		【ジャ】	得
山本	0	GK	久保	0
浅井	0	GK	山本	0
山中	0	FP	平田	0
楠石	2	FP	松下	6
小森	4	FP	林	3
木下	0	FP	金田	2
宮平	1	FP	鈴木	1
国府田	1	FP	河田	3
佐々木	1	FP	笠	0
中川	2	FP	若田	0

15（3） PT （0）11

八幡工OB、安定の攻守

▼第9回滋賀県総合室内選手権（2月・滋賀県立体育館）

▽男子1回戦

ブリヂストン彦根 13－6 京都セラミック

彦根東高 13－8 自衛隊大津

八幡工高 20－9 ダイキンKK

高島高 11－9 滋賀大（経）

米原高 12－10 I・B・M

滋賀教員 26－14 松下電工

▽同準々決勝

八幡工高OB 13－8 ブリヂストン彦根

八幡工高 17－4 彦根東高

米原高 8－6 高島高

高島ク 7－5 滋賀教員

▽同準決勝

八幡工高OB 13－9 八幡工高

高島ク 14（延）13 米原高

▽同決勝

八幡工高OB 14（4－3, 10－4）7 高島ク

▽女子1回戦（3試合）

彦根西中 9－4 ブリヂストン彦根

守山女高 5－3 大津商高

彦根西高 6（延）4 愛知高

▽同準決勝

彦根西高OG 5－3 彦根西中

守山女高 3－2 彦根西高

▽同決勝

守山女高 10（3－0, 7－3）3 彦根西高OG

琉球大、教員振り切る

▼第6回沖縄県選抜大会（2月・南部商）

▽一般男子1回戦（2試合）

沖縄国際大 24－6 沖縄イーグルス

琉球大 31－8 小禄高OB

▽同準決勝

沖縄教員 27－14 沖縄国際大

琉球大 13－9 大知会

▽同決勝

琉球大 18（7－6, 11－10）16 沖縄教員

▽同女子決勝

小禄OG 17（9－3, 8－9）12 興南OG

延岡、都城商共に初優勝

▼第10回宮崎県高校新人大会（1月、宮崎県体育館）

▽男子準々決勝

都城工 11－10 宮崎工

泉ケ丘 18－12 日南

延岡 21－7 宮崎電子

小林工 13－10 西都商

▽同準決勝

都城工 12（延）11 泉ケ丘

延岡 12－6 小林工

▽同3位決定戦

小林工 19－10 泉ケ丘

▽同決勝

延岡 14（7－5, 7－6）11 都城工

▽女子準決勝

小林商 15－3 延岡

都城商 12－9 西都商

▽同3位決定戦

西都商 6－5 延岡

▽同決勝

都城商 12（5－4, 3－4, 2－0, 2－2）10 小林商

女子優勝、佐賀選抜がさらう

▼第16回熊本県総合選手権（1月・熊本市体育館）

▽男子Aグループ準々決勝

熊城会 18－13 全熊本商大

トヨタカローラ 18－11 佐賀選抜（特別参加）

佐賀教員（特別参加） 14－12 熊本トヨタ

熊城会B 12－9 全第一工高

▽同準決勝

熊城会 14－10 佐賀教員

トヨタカローラ 8（分）8 熊城会B

PTコンテストでトヨタの勝ち

▽同決勝

熊城会 22（8－5, 14－5）10 トヨタカローラ

▽女子準々決勝

女子商OG 8－7 熊本市高

熊市高3年 2（分）2 佐賀高校選抜（特別参加）

PTコンテストで熊市高3年の勝ち

佐賀選抜（特別参加） 11－4 熊本市高OG

熊本女商高 8－2 仲よし同好会

▽同準決勝

熊市高3年 5－4 女子商OG

佐賀選抜 9－5 熊本女商高

▽同決勝

佐賀選抜 6（1－1, 5－1）2 熊市高3年

花巻勢、強味みせる

▼第18回岩手県高校室内選手権

▽男子準々決勝

花巻北 24－9 釜石南

盛岡一 17－4 水沢

久慈 17－11 盛岡三

岩手 7－5 盛岡四

▽同準決勝

花巻北 9（延）6 盛岡一

久慈 16－13 岩手

▽同決勝
花巻北 18（8―8、10―6）14 久慈
▽女子準々決勝
盛岡二 6―3 黒沢尻南
花巻北 10―6 釜石商
花巻農 11―4 釜石南
花巻南 10―5 平舘
▽同準決勝
盛岡二 7―4 花巻北
花巻南 14―3 花巻農
▽同決勝
花巻南 7（3―1、4―3）4 盛岡二

島原農、長崎日大制す

▼長崎県高校新人選手権（2月・島原農高）
▽男子準々決勝
佐世保北 15―2 長崎北
長崎日大 9―8 佐世保西
口加 21―7 佐東商
鹿町工 14―12 長崎工
▽同準決勝
佐世保北 25―8 長崎日大
鹿町工 26―14 口加
▽同3位決定戦
鹿町工 16―14 長崎日大
▽同決勝
佐世保北 17（8―7、9―5）12 鹿町工
▽女子決勝リーグ
佐世保商 12―4 西彼杵
島原農 6―5 長崎日大
長崎日大 12―2 西彼杵
島原農 9―5 佐世保商
佐世保商 9―5 長崎日大
島原農 21―1 西彼杵
【順位】①島原農②佐世保商③長崎日大④西彼杵

境港市、リーグ候補の貫録

▼第6回鳥取県総合室内選手権（2月・米子市民体育館）
▽男子1回戦
境港市HC 21―7 倉吉フェニクス
倉吉東高 11―3 鳥取三洋
倉吉産高 17―11 境高
米子工専 9―8 倉吉工高
米子工専B 12―7 米子東高
鳥取大 13―12 自衛隊米子
倉吉東高B 棄権 倉吉工高B
境港工高 24―11 境港市HC
▽同準々決勝
境港市HC 18―7 倉吉東高
米子工専 21―15 倉吉産高
米子工専B 18（延）14 鳥取大
境港工高 17―6 倉吉東高B
▽同準決勝
境港市HC 22―14 米子工専
境港工高 17―9 米子工専B
▽同決勝
境港市HC 19（11―7、8―6）13 境港工高
▽女子1回戦（＝準決勝）
米子南商高 8―4 倉吉西高
倉吉産高 10―0 米子東高
▽同3位決定戦
倉吉西高 20―2 米子東高
▽同決勝
米子南商高 8（2―2、3―3、0―0、3―1）6 倉吉産高

▼栃木県高校新人大会（1月・栃木県体育館）
▽男子準々決勝
国学院栃木 20―3 足利商
栃木農 16―14 宇都宮工
烏山 11（分）11 足利工
PTコンテストで烏山の勝ち
馬頭 16―5 足利
▽同準決勝
国学院栃木 13―11 栃木農
馬頭 17―10 烏山
▽同決勝
国学院栃木 11（5―6、6―4）10 馬頭
▽女子準々決勝
佐野女 8―7 馬頭
栃木女 23―0 足利女
国学院栃木 25―5 作新学院
小山城南 12―3 藤岡
▽同準決勝
栃木女 11―1 佐野女
国学院栃木 11―4 小山城南
▽同決勝
栃木女 12（5―0、7―3）3 国学院栃木

▼第16回岐阜県女子選抜選手権（1月・岐阜県民体育館）
▽準々決勝
県岐阜商高 不戦勝 三洋電機
養老女商高 8―6 笠松ク
紅葉会 8―6 富田女高
岐阜教員 5―0 大垣農高
▽準決勝
県岐阜商高 6―2 養老女商高
岐阜教員 8（延）6 紅葉会
▽決勝
県岐阜商高 5（3―3、2―1）4 岐阜教員

〜東海高校生室内〜

名古屋市工が初

第4回東海高校生室内選手権は2月22日、岐阜県民体育館で行われ男子は名古屋市工（愛知）が、バランスのとれた攻守で初優勝した。

女子は、接戦模様で、県岐阜商（岐阜）×清水市商（静岡）の決勝も、結局、勝ちこし点を奪いあえぬまで終了、両校優勝（ともに初）と決まった。

▽男子準決勝（＝1回戦）
県岐阜商（岐阜）15（5―5、10―5）10 尾鷲（三重）
名古屋市工（愛知）14（4―6、10―4）10 静岡農（静岡）
▽同決勝
名古屋市工 16（7―4、9―5）9 県岐阜商
▽女子準決勝（＝1回戦）
清水市商（静岡）9（5―2、4―5）7 市邨（愛知）
県岐阜商（岐阜）8（5―0、3―3）3 津女子（三重）
▽同決勝
県岐阜商 7（4―4、3―3）7 清水市商
引き分け

トヨタ車体敗れる

▼第35回愛知実業団リーグ（2月 名古屋市体育館）

▽男子1部

ブラザー工業14―7自衛隊春日井
トヨタ車体26―8自衛隊春日井
日本碍子　12―11ブラザー工業
自衛隊春日井15―12豊田織機
トヨタ車体31―13ブラザー工業
新日鉄　18―17トヨタ車体
新日鉄　22―13自衛隊春日井
新日鉄　23―8豊田織機
トヨタ車体27―12日本碍子
トヨタ車体28―6豊田織機
新日鉄　22―6ブラザー工業
ブラザー工業12―11豊田織機
自衛隊春日井18―12日本碍子
日本碍子　23―8豊田織機
新日鉄　21―12日本碍子

【順位】①新日鉄5戦全勝（45年1月の第16回リーグ以来6年ぶりの優勝、通算10度目）②トヨタ車体4勝1敗③日本碍子・自衛隊春日井・ブラザー工業2勝3敗⑨豊田自動織機5敗

▽同2部順位決定戦・7～8位

アイシン精機21―10トーメン

・5～6位

パイロットインキ18―13中部電力

・3～4位

三菱重工　19（延）16豊田工機

・1～2位

トヨタ自動車15―13豊田合成

▽同1、2部入れ替え戦

トヨタ自動車（2部）17―11豊田自動織機（1部）

▽女子（2回戦制）

ブラザー工業20―4豊田工機
ブラザー工業33―0伏原紡織
豊田工機　16―3伏原紡織
ブラザー工業24―0豊田工機
豊田工機　21―6伏原紡織
ブラザー工業22―2伏原紡織

【順位】①ブラザー工業②豊田工機③伏原紡織

県和歌山商、男女優勝は逸す

▼和歌山県高校新人戦（2月・和歌山商体育館）

▽男子予選リーグA組順位①那賀②新宮③吉備④笠田

・同B組順位①県和歌山商②市和歌山商③海南④箕島

・同C組順位①御坊商工②桐蔭③粉河④耐久

▽同決勝リーグ

県和歌山商8―3那賀
御坊商工　5―4那賀
御坊商工　4（分）4県和歌山商

【順位】①県和歌山商（得失点差5）②御坊商工（1）③那賀

▽女子予選リーグA組順位①県和歌山商②貴和・御坊商工

・同B組順位①新宮②箕島③吉備

・同C組順位①粉河②笠田③耐久

▽同決勝リーグ

粉河　6―1県和歌山商
新宮　4―2粉河
県和歌山商4（分）4新宮

【順位】①新宮②粉河③県和歌山商

菖蒲と深谷女勝つ

▼埼玉県高校新人戦（2月・県立坂戸高体育館ほか）

▽男子準々決勝

浦和西　14―9東教大付坂戸
菖蒲　26―7桶川
浦和南　24―10城西大川越
川口工　22―7大宮北

▽同準決勝

菖蒲　21―6浦和西
川口工　12―5浦和南

▽同決勝

菖蒲　19（9―5、10―6）11川口工

▽女子準々決勝

深谷女　12―2川口女
川口北　20―1浦和実
浦和西　12―3浦和南
浦和市立　10―2聖望

▽同準決勝

深谷女　11―2川口北
浦和西　10―4浦和市立

▽同決勝

深谷女　12（9―3、3―1）4浦和西

京都産大、地力示す

▼第18回京都府選抜室内大会（2月・京都市立体育館）

▽男子準々決勝

伏見ク　27―13洛東ク
京都教員ク21―13篁会
平安送球会15―13立命館大
京都産大　24―7嵯峨野ク

▽同準決勝

伏見ク　17―11平安送球会
京都産大　15―13京都教員ク

▽同決勝

京都産大　18（8―8、10―8）16伏見ク

▽女子準々決勝

精華OG　21―1京女OG
微清会　12―5鴨沂高
全明徳　24―6洛東高
西京商　8―3篁会

▽同準決勝

精華OG　20―5微清会
全明徳　5―1西京商

▽同決勝

精華OG　12（7―3、5―3）6全明徳

金沢市役所、順当勝ち

▼第2回金沢市（石川）総合男子選手権（2月・実践倫理記念館）

▽準々決勝

金沢市役所12―6金沢工大
県立工高　22―8教員ク
ヤングパパーズ16―14星稜高
金沢あすなろク22―11金沢大

▽準決勝

金沢市役所26―11県立工高
金沢あすなろク　22―14ヤング・パパーズ

▽決勝

金沢市役所　16（9―5、7―8）13金沢あすなろク

今月号は「明日への提言」「海外トピックス」「モントリオールへの道」などは休載いたします。

★編集後記

□……先月号は、印刷機が廻りだしたとたん、クウェートの棄権（オリンピックアジア予選）が伝えられ、速報付録を出すことになりました。

ホットな感じを受けとめていただけたでしょうか。

□……モントリオールまであと108日。男子は、勢いをつけてテルアビブ入りしましたが、本誌が届けられている頃は、そこでの結果も判明しているハズ。

男子に負けじと、女子の初合宿も活気にあふれ、オリンピック・イヤーならではの華やいだムードが、日本協会周辺にただよっています。

□……1頁所報の"土曜の集い"。是非、多くのかたが会場へ足を運んでいただきたいもの。ゆくゆくは、ハンドボール界の名物に成長して欲しいと思うのです。また、各地でこのような催しを企画された場合の告知に本誌を活用して下さい。

□……京都・小西氏からの投稿新路線待望の機をとらえた発想として興味深いものがあります安藤審判部長の「ホルレ氏追悼」は、故人を知る人には印象深い原稿でしょう。

□……春闘で今月号の配達が遅れるかもしれません。（S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一四〇号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五一年三月二十五日印刷 発行
昭和五一年四月一日発行

発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋[illegible]南一-一-一
電話 大[illegible](467)三一一一
振替 東京五八三四八番

編集兼発行人 荒川清美

定価二百八十円
(年間購読料二千七百円)